

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科等連係課程実施基本組織（研究科の設置）								
フリガナ設置者	コリツダ`イ`クホジ`ン チハダ`イ`ク 国立大学法人 千葉大学								
フリガナ大学の名称	チハダ`イ`ク 千葉大学 (Chiba University)								
大学本部の位置	千葉県千葉市稲毛区弥生町1番33号								
大学の目的	千葉大学は、教育基本法に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学芸を教授研究し、大学院においては、学術の理論及び応用を教授研究してその深奥を究め、以て文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	千葉大学に大学院総合国際学位プログラムを設置し、現代世界と現代日本が抱える諸課題、とりわけ国連が提唱する持続可能社会への転換や生命科学の進展、高度情報化社会の到来が提起する問題に取り組み、社会システムや知識のあり方そのものを再構築する。このため、国境、特定の知識、領域をこえてテクノロジーが展開する新たな社会変化のなかで高度な問題解決能力及びイノベーションの実現を通じて広く内外に貢献するような社会課題と学術知を結合する能力を持ち、課題解決を志向する文理横断的・異分野融合的な新たな知性を備えた人材を育成する。								
新設学部の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	研究科等連係課程実施基本組織 総合国際学位プログラム [Graduate Degree Program of Global and Transdisciplinary Studies]	年	人	年次人	人	修士（学術） 【Master of Global and Transdisciplinary Studies】	令和2年4月 第1年次	千葉県稲毛区弥生町1番33号	
	連係協力研究科（I） 人文公共学府 [Graduate School of Humanities and Studies on Public Affairs]							千葉県稲毛区弥生町1番33号	
	人文科学専攻（M） [Program of Humanities]	2	38	0	76	修士（文学） 【Master of Arts (Philosophy)】 修士（学術） 【Master of Arts (Philosophy)】	平成29年4月 第1年次		
	人文科学専攻から総合国際学位プログラムの内数とする入学定員数		4	0	8				

新 設 学 部 等 の 概 要	公共社会科学専攻 (M) [Program of Studies on Public Affairs and Social Sciences]	2	10	0	20	修士 (経済学) 【Master of Arts(Economics)】 修士 (経営学) 【Master of Arts(Management Science)】 修士 (政治学) 【Master of Arts(Political Science)】 修士 (公共学) 【Master of Arts(Public Affairs)】 修士 (学術) 【Master of Arts(Philosophy)】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 法学関係 経済学関係
	公共社会科学専攻から 総合国際学位プログラ ムの内数とする入学定 員数		1	0	2				
	関係協力研究科 (Ⅱ) 融合理工学府 [Graduate School of Science and Engineering]							千葉市稲毛区弥生町1番33号	
	数学情報科学専攻 (M) [Division of Mathematics and Informatic]	2	74	0	148	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係
	地球環境科学専攻 (M) [Division of Earth and Environmental Sciences]	2	81	0	162	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係
	先進理化学専攻 (M) [Division of Advanced Science and Engineering]	2	207	0	414	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係
	創成工学専攻 (M) [Division of Creative Engineering]	2	117	0	234	修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 工学関係
基幹工学専攻 (M) [Division of Fundamental Enginering]	2	150	0	300	修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	平成29年4月 第1年次		学位の分野： 工学関係	
要 計		-	-	-					
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の 変更等)		医学部医学科 [定員増] (17) (平成31年10月収容定員変更計画書提出) (3年次編入学定員) [定員減] (△5)							
教育 課程	新設学部等の名称 総合国際学位プログラ ム	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
		49 科目	27 科目	3 科目	79 科目	30 単位			

教 員 組 分	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼 任 教 員 等
新 設	研究科等連係課程実施基本組織 総合国際学位プログラム		人	人	人	人	人	人	人
	連係協力研究科 (I) 人文公共学府 人文科学専攻 (M) 公共社会科学専攻 (M)		<0> 【5】 (5)	<0> 【7】 (7)	<0> 【1】 (1)	<0> 【0】 (0)	<0> 【13】 (13)	<0> 【0】 (0)	<0> 【28】 (28)
分	連係協力研究科 (II) 融合理工学府 数学情報科学専攻 (M) 地球環境科学専攻 (M) 先進理化学選考 (M) 創成工学専攻 (M) 基幹工学専攻 (M)								
	計		5 (5)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	— (—)
既 設	人文公共学府 人文科学専攻 (M)		51 【3】 (51)	29 【3】 (29)	3 【1】 (3)	4 【0】 (4)	87 【7】 (87)	0 【0】 (0)	36 【0】 (36)
	公共社会科学専攻 (M)		27 (27)	23 (23)	1 (1)	1 (1)	52 (52)	0 (0)	37 (37)
分	計		78 (78)	52 (52)	4 (4)	5 (5)	139 (139)	0 (0)	— (—)
	融合理工学府 数学情報科学専攻 (M)		19 (19)	18 (18)	1 (1)	8 (8)	46 (46)	0 (0)	43 (43)
分	地球環境科学専攻 (M)		20 (20)	17 (17)	1 (1)	9 (9)	47 (47)	0 (0)	52 (52)
	先進理化学専攻 (M)		49 【1】 (49)	46 【1】 (46)	3 【0】 (3)	18 【0】 (18)	116 【2】 (116)	0 【0】 (0)	72 【0】 (72)
分	創成工学専攻 (M)		20 【1】 (20)	23 【3】 (23)	0 【0】 (0)	5 【0】 (5)	48 【4】 (48)	0 【0】 (0)	38 【0】 (38)
	基幹工学専攻 (M)		28 (28)	19 (19)	0 (0)	13 (13)	60 (60)	0 (0)	35 (35)
要	計		136 (136)	123 (123)	5 (5)	53 (53)	317 (317)	0 (0)	— (—)
	合 計		214 (214)	175 (175)	9 (9)	58 (58)	456 (456)	0 (0)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		561 (561)		690 (690)		1,251 (1,251)		
	技 術 職 員		1,355 (1,355)		1,031 (1,031)		2,386 (2,386)		
	図 書 館 専 門 職 員		19 (19)		0 (0)		19 (19)		
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		41 (41)		43 (43)		
計		1,937 (1,937)		1,762 (1,762)		3,699 (3,699)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	511,671m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		511,671m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	88,021m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		88,021m <sup>2</sup>		
	小 計	599,692m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		599,692m <sup>2</sup>		
	そ の 他	664,070m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		664,070m <sup>2</sup>		
合 計		1,263,762m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		1,263,762m <sup>2</sup>		

(注)  
<>の中の数は  
研究科等連係課  
程実施基本組織  
のみに従事する  
専任教員。  
【】の中の数は  
研究科等連係課  
程実施基本組織  
と連係協力研究  
科等を兼ねる専  
任教員。

校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
		306,876㎡ (303,671㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	306,876㎡ (303,671㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	215室	200室	63室	12室 (補助職員2人)	2室 (補助職員2人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数		大学全体			
		総合国際学位プログラム		1,134 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	1,363,048 [512,184] (1,363,048 [512,184])	25,515 [9,872] (25,515 [9,872])	23,620 [21,983] (23,620 [21,983])	5,355 (5,355)	10,690 (10,690)	135 (135)		
	計	1,363,048 [512,184] (1,363,048 [512,184])	25,515 [9,872] (25,515 [9,872])	23,620 [21,983] (23,620 [21,983])	5,355 (5,355)	10,613 (10,613)	135 (135)		
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数		大学全体		
		20,774㎡		1,941席	1,516,416				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		5,018㎡		サッカー場、野球場、テニスコート、武道場、弓道場					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし						
既設大学等の状況	大学の名称	千葉大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	【学部】	年	人	年次人	人		倍		
	国際教養学部 国際教養学科	4	90	—	360	学士(国際教養学)	1.04 1.04	平成28年度	千葉市稲毛区弥生町1丁目33号
	文学部			3年次					
	人文学科	4	170	10	700	学士(文学)	1.03 1.03	平成28年度	千葉市稲毛区弥生町1丁目33号
	行動科学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和56年度	2016年度より学生募集停止
	史学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和56年度	
	日本文化学科 国際言語文化学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成6年度 平成6年度	
	法政経学部 法政経学科	4	370	—	1,480	学士(法学) 学士(経済学) 学士(政治学・政策学)	1.02 1.02	平成26年度	千葉市稲毛区弥生町1丁目33号
	法経学部								
	法学科	4	—	—	—	学士(法学)	—	昭和56年度	2013年度より学生募集停止
	経済学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	昭和56年度	
総合政策学科	4	—	—	—	学士(政治学・政策学)	—	昭和56年度		
教育学部									
学校教員養成課程	4	390	—	390	学士(教育学)	1.00 1.00	平成31年度	千葉市稲毛区弥生町1丁目33号	
小学校教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和25年度	2019年度より学生募集停止	
中学校教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和25年度		
特別支援教育教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和20年度		
幼稚園教員養成課程 養護教諭養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和43年度 昭和51年度		

既設大学等の状況	スポーツ科学課程	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	平成6年度			
	生涯教育課程	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	平成11年度			
	理学部						1.05		千葉市稲毛区弥生町1丁目33号		
	数学・情報数理学科	4	44	—	176	学士 (理学)	1.04	平成6年度			
	物理学科	4	39	—	156	学士 (理学)	1.06	昭和43年度			
	化学科	4	39	—	156	学士 (理学)	1.06	昭和43年度			
	生物学科	4	39	—	156	学士 (理学)	1.03	昭和43年度			
	地球科学科	4	39	—	156	学士 (理学)	1.05	平成6年度			
	工学部			3年次				1.02		千葉市稲毛区弥生町1丁目33号	
	総合工学科	4	620	60	1,920	学士 (工学)	1.02	平成29年度			
	建築学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度		2017年度より学生募集停止	
	都市環境システム学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	デザイン学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	機械工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	メディカルシステム学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	ナノサイエンス学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	共生応用化学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	画像科学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	情報画像学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
	園芸学部							1.03		松戸市松戸648番地	
	園芸学科	4	64	—	256	学士 (農学)	1.02	平成19年度			
	応用生命化学科	4	31	—	124	学士 (農学)	1.05	平成19年度			
	緑地環境学科	4	66	—	264	学士 (農学)	1.02	平成19年度			
	食料資源経済学科	4	29	—	116	学士 (農学)	1.05	平成19年度			
	医学部			3年次				1.00		千葉市中央区亥鼻1丁目8番地1号	
	医学科	6	117	5	722	学士 (医学)	1.00	昭和24年度			
	薬学部							1.05		千葉市中央区亥鼻1丁目8番地1号	2019年度入学定員増 (10人)
	薬学科	6	50	—	250	学士 (薬学)	1.05	平成18年度			
	薬科学科	4	40	—	160	学士 (薬科学)	1.05	平成18年度			
看護学部			3年次				1.03		千葉市中央区亥鼻1丁目8番地1号		
看護学科	4	80	10	340	学士 (看護学)	1.03	昭和50年度				
【大学院】											
人文公共学府[博士前期]							0.93		千葉市稲毛区弥生町1丁目33号		
人文科学専攻	2	38	—	76	修士 (文学)	0.95	平成29年度				
					修士 (学術)						
公共社会科学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	0.85	平成29年度				
					修士 (経営学)						
					修士 (政治学)						
					修士 (公共学)						
					修士 (学術)						
人文公共学府[博士後期]							0.97				
人文公共学専攻	3	15	—	45	博士 (法学)	0.97	平成29年度				
					博士 (文学)						
					博士 (経済学)						
					博士 (公共学)						
					博士 (学術)						
人文社会科学研究所									千葉市稲毛区弥生町1丁目33号	2017年度より学生募集停止	
[博士前期]											
地域文化形成専攻	2	—	—	—	修士 (文学)	—	平成18年度				
					修士 (学術)						
公共研究専攻	2	—	—	—	修士 (経済学)	—	平成18年度				
					修士 (法学)						
					修士 (政治学)						
					修士 (公共学)						
					修士 (学術)						

既設大学等の状況	社会科学研究専攻	2	—	—	—	修士 (文学) 修士 (経済学)	—	平成18年度	2017年度より学生募集停止	
	総合文化研究専攻	2	—	—	—	修士 (法学) 修士 (文学) 修士 (学術)	—	平成18年度		
	先端経営科学専攻	2	—	—	—	修士 (経済学) 修士 (法学) 修士 (政治学) 修士 (経営学)	—	平成18年度		
	人文社会科学研究科 [博士前期] 公共研究専攻	3	—	—	—	博士 (法学) 博士 (文学) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (政治学) 博士 (公共学) 博士 (学術)	—	平成18年度		
	社会科学研究専攻	3	—	—	—	博士 (法学) 博士 (政治学) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (学術)	—	平成18年度		
	文科科学研究専攻	3	—	—	—	博士 (文学) 博士 (学術)	—	平成18年度		
	専門法務研究科[専門職] 法務専攻	2 3	40	—	120	法務博士 (専門職)	0.47 0.47	平成16年度		千葉市稲毛区弥生町1丁目33号
	教育学研究科[修士] 学校教育学専攻	2		59		—	118	修士 (教育学)		1.05
	学校教育科学専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	平成23年度		
	教科教育科学専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	平成23年度		
	教育学研究科[専門職] 高度教職実践専攻	2	20	—	40	教職修士 (専門職)	1.10 1.10	平成28年度		
	融合理工学府 [博士前期] 数学情報科学専攻	2	74	—	148	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (学術)	1.02 0.92	平成29年度		千葉市稲毛区弥生町1丁目33号
	地球環境科学専攻	2	81	—	162	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (学術)	1.01	平成29年度		
	先進理化学専攻	2	207	—	414	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (学術)	1.04	平成29年度		
	創成工学専攻	2	117	—	234	修士 (工学) 修士 (学術)	1.03	平成29年度		
	基幹工学専攻	2	150	—	300	修士 (工学) 修士 (学術)	1.05	平成29年度		
	融合理工学府 [博士後期] 数学情報科学専攻	3	9	—	27	博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.91 0.92	平成29年度		
	地球環境科学専攻	3	15	—	45	博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.68	平成29年度		

既設大学等の状況	先進理化学専攻	3	29	—	87	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.80	平成29年度		
	創成工学専攻	3	18	—	54	博士(工学) 博士(学術)	1.08	平成29年度		
	基幹工学専攻	3	17	—	51	博士(工学) 博士(学術)	1.09	平成29年度		
	理学研究科 [博士前期] 基盤理学専攻	2	—	—	—	修士(理学) 修士(学術)	—	平成19年度	千葉県稲毛区弥生町1丁目33号	2017年度より学生募集停止
	地球生命圏科学専攻	2	—	—	—	修士(理学) 修士(学術)	—	平成19年度		
	理学研究科 [博士後期] 基盤理学専攻	3	—	—	—	博士(理学) 博士(学術)	—	平成19年度		2017年度より学生募集停止
	地球生命圏科学専攻	3	—	—	—	博士(理学) 博士(学術)	—	平成19年度		
	工学研究科 [博士前期] 建築・都市科学専攻	2	—	—	—	修士(工学) 修士(学術)	—	平成19年度	千葉県稲毛区弥生町1丁目33号	2017年度より学生募集停止
	デザイン科学専攻	2	—	—	—	修士(工学) 修士(学術)	—	平成19年度		
	人工システム科学専攻	2	—	—	—	修士(工学) 修士(学術)	—	平成19年度		
	共生応用化学専攻	2	—	—	—	修士(工学) 修士(学術)	—	平成19年度		
	工学研究科 [博士後期] 建築・都市科学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成19年度		2017年度より学生募集停止
	デザイン科学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成19年度		
	人工システム科学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成19年度		
	共生応用化学専攻	3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平成19年度		
	融合科学研究科 [博士前期] ナノサイエンス専攻	2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(学術)	—	平成19年度	千葉県稲毛区弥生町1丁目33号	2017年度より学生募集停止
	情報科学専攻	2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(学術)	—	平成19年度		
	融合科学研究科 [博士後期] ナノサイエンス専攻	3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	—	平成19年度		2017年度より学生募集停止
	情報科学専攻	3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	—	平成19年度		
	園芸学研究科 [博士前期] 環境園芸学専攻	2	105	—	210	修士(農学) 修士(学術)	1.09 1.09	平成19年度	松戸市松戸648番地	

既設大学等の状況	園芸学研究所 [博士後期]					1.25		
	環境園芸学専攻	3	18	—	54	博士 (農学) 博士 (学術)	1.25	平成19年度
	医学薬学府 [修士]						0.98	
	医科学専攻	2	27	—	54	修士 (医科学)	0.96	平成17年度
	総合薬品科学専攻	2	50	—	100	修士 (薬科学)	1.00	平成22年度
	医学薬学府 [4年博士]						1.09	
	環境健康科学専攻	4	—	—	—	博士 (医学) 博士 (医薬学)	—	平成13年度
	先端医学薬学専攻	4	108	—	432	博士 (医学) 博士 (薬学)	1.08	平成24年度
	先進予防医学共同専攻	4	10	—	40	博士 (医学)	1.20	平成28年度
	医学薬学府 [後期3年博士]						0.88	
	先端創薬科学専攻	3	15	—	45	博士 (薬科学)	0.88	平成24年度
	看護学研究科 [修士]						1.02	
	看護システム管理学専攻	3	12	—	36	修士 (看護学)	1.02	平成14年度
	看護学研究科 [博士前期]						1.00	
	看護学専攻	2	25	—	50	修士 (看護学)	1.00	昭和54年度
看護学研究科 [博士後期]						1.02		
看護学専攻	3	12	—	36	博士 (看護学)	1.02	平成5年度	
看護学研究科 [5年一貫制博士課程]						0.80		
共同災害看護学専攻	5	2	—	10	博士 (看護学)	0.80	平成26年度	
附属施設の概要	<p>&lt;西千葉地区&gt; 所在地：千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 規模等：土地 380,958㎡ 名称：教育学部附属教員養成開発センター 目的：教員養成及び教員研修に関わる研究・教育を行うこと 設置年月日：平成25年4月1日 規模等：建物 2,543㎡ (学内共同研究センター) のうち一部</p> <p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：学校教育法に定める保育又は教育の実施，教育学部における幼児，児童又は生徒の保育又は教育に関する研究への協力及び教育学部の計画に従い学生の教育実習の実施 設置年月日：昭和26年4月1日 規模等：建物 1,418㎡</p> <p>名称：教育学部附属小学校 目的：学校教育法に定める保育又は教育の実施，教育学部における幼児，児童又は生徒の保育又は教育に関する研究への協力及び教育学部の計画に従い学生の教育実習の実施 設置年月日：昭和41年4月1日 規模等：建物 8,199㎡</p> <p>名称：教育学部附属中学校 目的：学校教育法に定める保育又は教育の実施，教育学部における幼児，児童又は生徒の保育又は教育に関する研究への協力及び教育学部の計画に従い学生の教育実習の実施 設置年月日：昭和40年4月1日 規模等：建物 10,114㎡</p> <p>名称：工学部附属創造工学センター 目的：ものづくりに関する基礎実験及び実践的・先端的な教育研究，地域社会に対する知的サービスの提供及びものづくりに関する情報発信等の共同利用に供すること 設置年月日：平成16年4月1日 規模等：建物 1,598㎡</p>							
								2012年度より学生募集停止

附属施設の概要

名称：医学薬学府附属薬用資源教育研究センター  
 目的：新薬創製の基盤となる薬用生物資源の探索，改良，確保及び機能性分子の設計等に関する教育  
 設置年月日：平成6年6月24日  
 規模等：土地 6,500㎡（薬草園）

名称：理学研究院附属ハドロン宇宙国際研究センター  
 目的：ハドロン宇宙に関する研究を行い，当該研究を有機的・戦略的に推進するとともに，世界に向けた研究発信を行う環境を整えること  
 設置年月日：平成24年1月1日  
 規模等：建物 21,942㎡（理学部）のうち一部

名称：工学研究院附属次世代モビリティパワーソース研究センター  
 目的：次世代モビリティパワーソースの研究開発及び実用化の拠点として，産学官連携による世界に先駆けた高効率で低公害の自動車パワートレインの研究開発及び実証を行い，製品化を推進すること  
 設置年月日：平成25年4月1日  
 規模等：建物 59,446㎡（工学部）のうち一部

名称：工学研究院附属インテリジェント飛行センター  
 目的：先進的な飛行ロボティクスの拠点として，生物規範工学，ドローン，工業デザインなどの研究が融合された学際的なドローン研究を推進すること  
 設置年月日：令和元年10月1日  
 規模等：建物 59,446㎡（工学部）のうち一部

名称：附属図書館  
 目的：図書，雑誌その他の学術情報資料を収集，整理及び提供し，千葉大学における教育及び研究に資するとともに，広く学術の発展に寄与すること  
 設置年月日：昭和24年5月31日  
 規模等：建物 16,037㎡（附属図書館本館）のうち一部

名称：環境リモートセンシング研究センター  
 目的：「リモートセンシング技術の確立と環境への応用」に関する研究  
 設置年月日：平成7年4月1日  
 規模等：建物 3,803㎡

名称：アカデミック・リンク・センター  
 目的：電子情報環境下における能動的学習を支援するとともに，教育情報資源等の制作，活用等に関する研究開発，企画及び立案を行い，それらの成果を実施及び検証すること  
 設置年月日：平成23年4月1日  
 規模等：建物 16,037㎡（附属図書館本館）のうち一部

名称：共用機器センター  
 目的：学内大型分析機器の集中管理及び機器分析技術の開発・研究，並びに学内における共用分析機器・設備の管理支援業務  
 設置年月日：平成25年4月1日  
 規模等：建物 2,543㎡（学内共同研究センター）のうち一部

名称：統合情報センター  
 目的：全学のICT化に関する調査研究を行うとともに情報関連技術の開発・研究  
 設置年月日：平成25年4月1日  
 規模等：建物 1,602㎡

名称：先進科学センター  
 目的：飛び入学者の効果的大学の支援及び早期高等教育の総合的な調査研究・開発  
 設置年月日：平成11年4月1日  
 規模等：建物 21,942㎡（理学部）のうち一部

名称：グローバル関係融合研究センター  
 目的：人類全体が直面する現代的諸問題に対する問題解決型の応用科学として，関係性中心の人文社会科学の融合を実践し，新領域としてグローバル関係学の確立と発展に寄与すること  
 設置年月日：平成29年4月1日  
 規模等：建物 4,239㎡（人文社会科学系総合研究棟）のうち一部

名称：ソフト分子活性化研究センター  
 目的：触媒化学，分析化学及びマテリアルサイエンスを融合することで分子認識と活性化の新概念を樹立し，高機能性ソフト分子を創製すること  
 設置年月日：平成30年4月1日  
 規模等：建物 21,942㎡（理学部）のうち一部及び建物 4,539㎡（千葉ヨウ素資源イノベーションセンター）のうち一部

附属施設の概要

名称：分子キラリティー研究センター  
目的：キラルな光による物質制御を中心に、分子エレクトロニクス、キラル分子化学及び生命科学に関連する教員が連携し、分子キラリティーに関する学際研究及び国際活動を推進すること  
設置年月日：平成29年4月1日  
規模等：建物 8,599㎡（工学系総合研究棟）のうち一部

名称：フロンティア医工学センター  
目的：医学・工学・企業の研究者、技術者が連携して予防、診断、治療、機能回復に関する医療診断機器の研究開発を促進すること  
設置年月日：平成25年10月1日  
規模等：建物 2,307㎡

名称：ベンチャービジネスラボラトリー  
目的：高度専門科学技術を展開できる能力を有する人材の育成及び新規産業の起業、育成につながる高度な基礎科学技術の研究・開発  
設置年月日：平成17年4月1日  
規模等：建物 1,516㎡

名称：アイソトープ実験施設  
目的：放射性同位元素を使用する研究の推進と安全管理・教育訓練等  
設置年月日：平成16年4月1日  
規模等：建物 2,680㎡

名称：千葉大学・上海交通大学国際共同研究センター  
目的：千葉大学及び上海交通大学（中国）が共同して運営し、先端的・先導的な学術研究、産学連携による研究開発及び有能な若手研究人材の育成、学術研究の国際交流の推進  
設置年月日：平成23年7月8日  
規模等：建物 22,948㎡（総合校舎）のうち一部

名称：総合安全衛生管理機構  
目的：環境安全及び学生・職員の健康安全を効率的に管理  
設置年月日：平成16年4月1日  
規模等：建物 1,254㎡

<亥鼻地区>  
所在地：千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1  
規模等：土地 267,470㎡

名称：医学部附属病院  
目的：診療を通じた医学の教育及び研究  
設置年月日：昭和24年5月31日  
規模等：建物 118,090㎡

名称：看護学研究科附属看護実践研究指導センター  
目的：看護学の実践的分野に関する調査研究、専門的研修を行い、かつ、国立大学法人の教員その他の者で、この分野の研究に従事する者の利用に供すること  
設置年月日：昭和57年4月1日  
規模等：建物 17,492㎡（看護学部）のうち一部

名称：看護学研究科附属専門職連携教育研究センター  
目的：我が国及びアジア圏の専門職連携に関する教育、実践及び研究を発展・進化させるための拠点として機能すること  
設置年月日：平成27年1月1日  
規模等：建物 17,492㎡（看護学部）のうち一部

名称：医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター  
目的：シミュレータ等を利用した教育及び研修を行い、医療安全を確保し、患者中心の医療を実践できる医療従事者を育成するとともに、シミュレータの研究・開発を行うこと  
設置年月日：平成24年2月1日  
規模等：建物 45,907㎡（医学部）及び建物 118,090㎡（医学部附属病院）のうち一部

名称：医学研究院附属法医学教育研究センター  
目的：死因究明制度の向上を図るとともに、死因情報を被虐児等生体の保護に活用する等の多岐にわたる専門領域横断型の人材を養成すること  
設置年月日：平成26年4月1日  
規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部

附属施設の概要

<p>名称：医学研究院附属超高齢社会研究センター          目的：臨床と社会医学相互の緊密な結束を形成し、包括的な老年医学研究を推進するとともに、超高齢社会時代に対応した新しい高齢者医療の創出及び健康長寿を実現する人材を養成すること          設置年月日：平成26年4月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>
<p>名称：医学研究院附属国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター          目的：粘膜免疫・アレルギー治療学という新学術領域を創成し、感染症、アレルギー、癌等に対する革新的な治療法を開発するとともに、人材交流の促進により国際的に活躍できる研究者を養成すること          設置年月日：平成28年4月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>
<p>名称：医学研究院附属治療学人工知能（A I）研究センター          目的：基礎医学研究ビッグデータ及び医療ビッグデータを基盤に人工知能を構築し、実証研究及び臨床現場での実地利用を展開することにより、新学術領域としてA I治療学を創成し、革新的な基礎研究の実施、精度の高い速やかな診断法の確立及び新たな治療法の開発を推進すること          設置年月日：平成30年4月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>
<p>名称：医学研究院附属バイオリソース教育研究センター          目的：臨床標本及び臨床情報の収集・保存・提供に用いられるシステム及び規格の標準化・統一化を図り、多様な治療実績やバイオバンクの共有及び膨大なゲノム・エピゲノム情報の取得・活用を推進することにより、オミクス解析基盤を整備し、医療現場に求められるニーズに的確に対応した革新的研究開発体制を構築・推進及び研究者を養成すること          設置年月日：平成30年4月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>
<p>名称：医学研究院附属動物実験施設          目的：動物実験を主体とした教育研究及び実験動物の飼育管理、生産、開発及び系統保存          設置年月日：平成53年4月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>
<p>名称：附属図書館（亥鼻分館）          目的：図書、雑誌その他の学術情報資料を収集、整理及び提供し、千葉大学における教育及び研究に資するとともに、広く学術の発展に寄与          設置年月日：昭和53年4月1日          規模等：建物 3,784㎡</p>
<p>名称：真菌医学研究センター          目的：病原真菌の研究と真菌による感染症及び中毒症の成因並びに征圧に関する研究を行い、かつ、国立大学法人の教員その他の者で、この分野の研究に従事する者の利用に供すること          設置年月日：平成9年4月1日          規模等：建物 3,466㎡</p>
<p>名称：バイオメディカル研究センター          目的：遺伝子実験を通じた遺伝子研究、教育の推進及び遺伝子実験に係わる情報の収集、提供、保存等          設置年月日：平成16年4月1日          規模等：建物 11,394㎡（医薬系総合研究棟Ⅰ）のうち一部</p>
<p>名称：社会精神保健教育研究センター          目的：重大な犯罪を行った精神障害者の診断、処遇判定、社会復帰、法運用等についての研究及び我が国の触法精神障害者対策の中心となる専門家の養成          設置年月日：平成17年4月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>
<p>名称：予防医学センター          目的：地域と連携した予防医学研究の実施、住民への情報提供、行政と連携した研究成果の地域への還元          設置年月日：平成19年6月1日          規模等：（西千葉地区）建物 8,599㎡（工学系総合研究棟Ⅰ）のうち一部          （亥鼻地区）建物 45,907㎡（医学部）のうち一部          （柏の葉地区）建物 1,158㎡</p>
<p>名称：未来医療教育研究センター          目的：基礎科学と臨床医学の間の知の循環に関する教育研究を行い、将来的にその中核的拠点を担う人材の養成を推進すること          設置年月日：平成24年1月1日          規模等：建物 45,907㎡（医学部）のうち一部</p>

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：再生治療学研究センター          目的：再生医学や疾患iPS細胞を利用した新しい治療学の研究拠点を形成し、再生医療の研究・実現化を担う人材を養成すること          設置年月日：平成27年4月1日          規模等：建物 7,890㎡（医薬系総合研究棟Ⅱ）のうち一部</p> <p>名称：子どものこころの発達教育研究センター          目的：子どもから大人までの幅広い発達段階の人間のこころと脳に関する教育研究を行うとともに、こころと脳の問題に取り組むことができる高度な専門職を養成すること          設置年月日：平成27年4月1日          規模等：建物 7,890㎡（医薬系総合研究棟Ⅱ）のうち一部</p> <p>名称：植物分子科学研究センター          目的：地球と人類を支える植物について、植物分子に注目し、環境下における分子科学的解明とその応用の研究を推進すること          設置年月日：令和元年10月1日          規模等：建物 7,890㎡（医薬系総合研究棟Ⅱ）のうち一部</p>	
	<p>&lt;松戸地区&gt;          所在地：千葉県松戸市松戸648          規模等：土地 147,255㎡</p>	
	<p>名称：附属図書館（松戸分館）          目的：図書、雑誌その他の学術情報資料を収集、整理及び提供し、千葉大学における教育及び研究に資するとともに、広く学術の発展に寄与          設置年月日：昭和24年5月31日          規模等：建物 1,256㎡（松戸分館）のうち一部</p>	
	<p>&lt;その他地区&gt;          名称：教育学部附属特別支援学校          目的：学校教育法に定める教育又は保育の実施、教育学部における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究への協力及び教育学部の計画に従い学生の教育実習の実施          所在地：千葉県千葉市稲毛区長沼原町312          設置年月日：昭和48年4月1日          規模等：土地 18,996㎡ 建物 3,558㎡</p>	
	<p>名称：海洋バイオシステム研究センター          目的：生物及び地球科学を中心とした海洋システムに関する教育・研究          所在地：（小湊地区）千葉県鴨川市内浦1-1          （銚子地区）千葉県銚子市外川町1-10835-6          設置年月日：平成11年4月1日          規模等：（小湊地区）土地 57,190㎡ 建物 1,553㎡          （銚子地区）建物 191㎡</p>	
	<p>名称：環境健康フィールド科学センター          目的：都市環境園芸学の創生・園芸技術教育研究機能の高度化及び環境健康総合科学の創生と実践に係る教育研究          所在地：（柏の葉地区）千葉県柏市柏の葉6-2-1          （沼田地区）群馬県沼田市下川田町字大竹5773          設置年月日：平成15年4月1日          規模等：（柏の葉地区）土地 166,889㎡ 建物 9,521㎡          （沼田地区）土地 71,358㎡ 建物 868㎡</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(総合国際学位プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究基盤科目	研究倫理	1前①	1			○				1					
	データサイエンス	1前①	1			○				1					
	環境科学と倫理	1前②		1		○				1					
	人の移動と倫理	1前②		1		○					1				
	科学技術と倫理	1前②		1		○			1						
	統計分析	1後④		1		○									兼1
	質的分析	1後④		1		○									兼1
	データマイニング	1後⑤		1		○				1					
	ワークショップ方法論	1後⑤		1		○				1					
小計(9科目)	—	—	2	7	0	—	—	—	1	4	1	0	0	兼2	
学際認識科目	アイデアソンⅠ	1前③	1					○		5	7	1			兼中・共同
	アイデアソンⅡ	2前③	1					○		5	7	1			兼中・共同
	移民・難民研究特論	1前①		1		○				2	2	1			オムニバス
	科学技術社会特論	1前①		1		○				2	2				オムニバス
	環境科学特論	1前①		1		○				1	3				オムニバス
	知識経済社会論	1後④		1		○				1					
	ダイバーシティからみた社会課題	1後④		1		○									兼1
	グローバル化と農業	1後④		1		○									兼1
	持続可能な地域コミュニティのデザイン	1後④		1		○					1				
	自然科学総合実験	1後④		1				○			1				
	科学技術のための政策論	1後④		1		○				1					
	空間移動と階層移動	1後⑤		1		○									兼1
	人の移動と言語の変容	1後⑤		1		○				1					
	グローバル化と教育	1後⑤		1		○					1				
	人の移動と雇用の法	1後⑤		1		○									兼1
	デザイン思考論	1後⑤		1		○									兼1
	宗教と科学と社会	1後⑤		1		○									兼1
移動とアイデンティティ	2前①		1		○					1					
グローバル化と都市計画	2前①		1		○					1					
応用倫理学	2前①		1		○					1					
小計(20科目)	—	—	2	18	0	—	—	—	5	7	1	0	0	兼6	
実践・演習科目	共同研究実践	1前①②	2					○							兼1
	ソーシャル／グローバル・インターンシップ	1通		1				○							兼1 集中
	ソーシャル／グローバル・ボランティア	1通		1				○				1			集中
	TDS研究実践演習Ⅰ	1通		1				○		5	7	1			兼中・共同
	TDS研究実践演習Ⅱ	1通		1				○		5	7	1			兼中・共同
	TDS研究実践演習Ⅲ	2通		1				○		5	7	1			兼中・共同
小計(6科目)	—	—	2	5	0	—	—	—	5	7	1	0	0	兼1	
	TDS課題探求Ⅰ	1通		2				○		1					集中
	TDS課題探求Ⅱ	1通		2				○		1					集中
	国際社会福祉論	1前①②		2		○						1			
	国際社会福祉論演習	1後④⑤		2		○						1			
	社会階層論	1前①②		2		○									兼1
	社会階層論演習	1後④⑤		2		○									兼1
	移動の人類学	1前①②		2		○									兼1
	移動の人類学演習	1後④⑤		2		○									兼1
	多文化共生論	1前①②		2		○									兼1
	多文化共生論演習	1後④⑤		2		○									兼1
公共政治論	1前①②		2		○									兼1	

課題探求科目	人文公共学府開設科目	公共政治論演習	1後④⑤	2			○										兼1	
		中東政治	1前①	2			○											兼1
		中東政治演習	1後⑤	2				○										兼1
		宗教人類学	1前①②	2			○											兼1
		宗教人類学演習	1後④⑤	2				○										兼1
		現代社会思想	1前①②	2			○											兼1
		現代社会思想演習	1後④⑤	2				○										兼1
		地域社会学	1前①②	2			○											兼1
		地域社会学演習	1後④⑤	2				○										兼1
		医療・福祉社会学	1前①②	2			○											兼1
		医療・福祉社会学演習	1後④⑤	2				○										兼1
		ヨーロッパ史Ⅲ	1前①②	2			○											兼1
		ヨーロッパ史Ⅲ演習	1後④⑤	2				○										兼1
		公共政策論	1前①②	2			○											兼1
	公共政策論演習	1後④⑤	2				○										兼1	
	知識情報科学	1前①②	2			○											兼1	
	知識情報科学演習	1後④⑤	2				○										兼1	
	生態人類学	1前①②	2			○											兼1	
	生態人類学演習	1後④⑤	2				○										兼1	
	環境経済政策論	1前①②	2			○											兼1	
環境経済政策論演習	1後④⑤	2				○										兼1		
融合理工学府開設科目	建築・都市と人間の歴史	1後④⑤	2			○											兼1	
	人工知能	1後④⑤	2			○											兼1	
	環境エネルギー保全論	1前①②	2			○											兼2 オムニバス	
	環境エネルギーシステム学	1後④⑤	2			○											兼1	
	環境資源循環学	1前①②	2			○											兼1	
	建築環境計画理論	1後④⑤	2			○											兼1	
	バイオエナジー基礎	1後⑥	1			○				1							兼1 共同	
人間－生活環境論	1後④⑤	2			○											兼1		
小計(40科目)	—	0	79	0	—				1	1	1	0	0			兼23		
研究指導・ 修士論文	研究計画指導Ⅰ	1前①②	1				○			5	7	1						
	研究計画指導Ⅱ	1後④⑤	1				○			5	7	1						
	論文指導Ⅰ	2前①②	2				○			5	7	1						
	論文指導Ⅱ	2後④⑤	2				○			5	7	1						
	小計(4科目)	—	6	0	0	—				5	7	1	0	0				
合計(79科目)			—	12	109	0	—			5	7	1	0	0			兼28	
学位又は称号		修士(学術)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係、法学関係、理学関係、工学関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
1及び2の要件をすべて満たした場合に、修了を認める。							1学年の学期区分							6ターム				
1. 以下の単位を修得すること(総計30単位) ・研究基盤科目4単位(うち2単位必修) ・学際認識科目8単位(うち2単位必修) ・実践・演習科目4単位(うち2単位必修) ・課題探求科目群4～8単位 ・研究指導・修士論文6単位(うち6単位必修) ・自由選択科目0～4単位														(1年を6タームに分割し、前期に3ターム(①～③)・後期に3ターム(④～⑥)開講)				
※課題探求科目群においては、大学院人文公共学府開設科目または大学院融合理工学府開設科目それぞれ4単位を上限とする。 ※自由選択科目においては、その他研究科等で修得した単位、大学院共通教育科目及び研究基盤科目、学際認識科目、実践・演習科目で上限を超えて修得した単位を算入する。														1学期の授業期間			8週	
2. 必要な研究指導を受け、修士論文を提出し合格すること。							1時限の授業時間							90分				

教育課程等の概要															
(人文公共学府 人文科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎科目群	Common Grounds														
	リサーチ方法基礎論	1前①, 後④	1			○									兼4
	研究と倫理	1前①, 後④	1			○									兼3
	Graduate Commons														
	人文社会科学研究特論	1前2後④⑤, 2前2後④		1		○									兼4
	高等教育・科学技術政策論	1・2前①②		2		○			1						兼6オムニバス
	高等教育制度論	1・2前③		2		○			1	1					兼3
	Academic Communications														
	国際研究交流論A	1後④		1		○									兼2
	国際研究交流論B	1前②		1			○								兼2
	国際研究交流論C	1前③ 後⑥, 2前③		1				○							兼1
	英語ディスカッション	1・2後④		1			○								兼1
	ライティング基礎論	1前②		1			○								兼1
	プレゼンテーション基礎論	1前②		1			○								兼1
	国際インターンシップA	1前③ 後⑥, 2前③		2				○	3	2					兼2
	国際インターンシップB	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼4
	国際インターンシップC	1前③ 後⑥, 2前③		2				○	2						兼4
	国際インターンシップD	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼1
	Career Development														
	キャリア・デベロップメントA	1・2後⑥		1			○		1						兼2
キャリア・デベロップメントB	1・2前②		1			○								兼1	
Fieldwork															
フィールドワーク	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼1	
地域インターンシップA	1前③ 後⑥, 2前③		2				○	1	2					兼4	
地域インターンシップB	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼4	
小計(20科目)	—		2	27	0		—	8	4	0	0	0		兼29	
専門科目群 (基盤文化コース / 多文化共生コース)	ギリシア哲学	1・2前①②		2		○			1						
	ギリシア哲学演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	存在の哲学	1・2前①②		2		○				1					
	存在の哲学演習	1・2後④⑤		2			○			1					
	東洋哲学	1・2前①②		2		○			1						
	東洋哲学演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	言語哲学	1・2前①②		2		○			1						
	言語哲学演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	知識情報科学	1・2前①②		2		○			1						
	知識情報科学演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	比較認知行動論	1・2前①②		2		○						1			
	比較認知行動論演習	1・2後④⑤		2		○						1			
	言語認知情報学	1・2前①②		2		○			1						
	言語認知情報学演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	多様性認知論	1・2前①②		2		○				1					
	多様性認知論演習	1・2後④⑤		2		○				1					
	認知情報解析学	1・2前①②		2		○			1						
	認知情報解析学演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	知覚認知論	1・2前①②		2		○			1						
	知覚認知論演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	視知覚論	1・2前①②		2		○			1						
	視知覚論演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	記憶機能論	1・2前①②		2		○			1						
	記憶機能論演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	認知的個人差論	1・2前①②		2		○			1						
	認知的個人差論演習	1・2後④⑤		2		○			1						
	社会行動科学	1・2前①②		2		○				1					
	社会行動科学演習	1・2後④⑤		2		○				1					
	社会的相互行為論	1・2前①②		2		○			1						
	社会的相互行為論演習	1・2後④⑤		2		○			1						
家族社会学	1・2前①②		2		○			1							
家族社会学演習	1・2後④⑤		2		○			1							
地域社会学	1・2前①②		2		○			1							
地域社会学演習	1・2後④⑤		2		○			1							







教育課程等の概要															
(人文公共学府 公共社会科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎科目群	Common Grounds														
	リサーチ方法基礎論	1前①, 後④	1			○									兼4
	研究と倫理	1前①, 後④	1			○									兼3
	Graduate Commons														
	人文社会科学研究特論	1前2後④⑤, 2前2後4		1		○									兼4
	高等教育・科学技術政策論	1・2前①②		2		○									兼7オムニバス
	高等教育制度論	1・2前③		2		○									兼2 集中
	Academic Communications														
	国際研究交流論A	1後④		1		○				1					兼1
	国際研究交流論B	1前②		1			○			1					兼1
	国際研究交流論C	1前③ 後⑥, 2前③		1				○		1					
	英語ディスカッション	1・2後④		1			○								兼1
	ライティング基礎論	1前②		1			○								兼1
	プレゼンテーション基礎論	1前②		1			○								兼1
	国際インターンシップA	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼7
	国際インターンシップB	1前③ 後⑥, 2前③		2				○		2					兼2
	国際インターンシップC	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼2
	国際インターンシップD	1前③ 後⑥, 2前③		2				○		1					
	Career Development														
	キャリア・デベロップメントA	1・2後④⑤, 2後4		1			○			1					兼2
	キャリア・デベロップメントB	1・2前②		1			○								兼1
	Fieldwork														
フィールドワーク	1前③ 後⑥, 2前③		2				○		1						
地域インターンシップA	1前③ 後⑥, 2前③		2				○							兼3	
地域インターンシップB	1前③ 後⑥, 2前③		2				○		1	1				兼3	
小計(20科目)	—	—	2	27	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼37	
専門科目群（公共学コース）	公共哲学	1・2前①②		2		○			1						
	公共哲学演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	公共政治論	1・2前①②		2		○			1						
	公共政治論演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	国際政治	1・2前①②		2		○			1						
	国際政治演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	公共文化論	1・2前①②		2		○			1						
	公共文化論演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	現代社会思想	1・2前①②		2		○			1						
	現代社会思想演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	公共政策論	1・2前①②		2		○				1					
	公共政策論演習	1・2後④⑤		2			○			1	1				
	現代雇用論	1・2前①②		2		○			1	1					
	現代雇用論演習	1・2後④⑤		2			○		1	1					
	環境経済政策論	1・2前①②		2		○			1						
	環境経済政策論演習	1・2後④⑤		2			○		1						
	国際経済論	1・2前③		2		○			1						
	国際経済論演習	1・2後⑥		2			○		1						
	日本政治史	1・2前①②		2		○				1					
	日本政治史演習	1・2後④⑤		2			○			1					
	アメリカ外交史	1・2前①②		2		○				1					
	アメリカ外交史演習	1・2後④⑤		2			○			1					
	国際関係論	1・2前①②		2		○				1					
	国際関係論演習	1・2前①②		2			○			1					
	中東政治	1・2前①		2		○			1						
	中東政治演習	1・2後⑤		2			○		1						
	国際政策論	1・2前①②		2		○				1					
	国際政策論演習	1・2後④⑤		2			○			1					
	政治思想史	1・2前①②		2		○			1						
	政治思想史演習	1・2後④⑤		2			○		1						

専門科目群 (公共学コース)	法社会学	1・2前①②	2		○			1					
	法社会学演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	歴史と法学	1・2前①②	2		○			1					
	法律史料読解演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	憲法	1・2前①②	2		○			1					
	憲法演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	刑法	1・2前①②	2		○			1					
	刑法演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	国際法	1・2前①②	2		○			1					
	国際法演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	民法・法律行為論	1・2前①②	2		○			1					
	民法総論演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	現代企業法	1・2後④⑤	2		○				1				
	現代企業法演習	1・2後④⑤	2			○			1				
	雇用の法と政策	1・2前①②	2		○			1					
	雇用の法と政策演習	1・2後④⑤	2			○		1					
	法理学	1・2前①②	2		○				1				
	法理学演習	1・2後④⑤	2			○			1				
	公共政策と法	1・2前①②	2		○				1				
	公共政策と法演習	1・2後④⑤	2			○			1				
特別研究Ⅰ	1後④⑤	2				○	15	11				集中	
特別研究Ⅱ	2前①②	2				○	15	11				集中	
特別研究Ⅲ	2後④⑤	2				○	15	11				集中	
小計(53科目)	—	6	100	0		—	15	11	0	0	0		
専門科目群 (経済・経営学コース)	マクロ経済学Ⅳ	1・2前①②	2		○			1					
	マクロ経済学Ⅴ	1・2後④⑤	2		○			1					
	戦略的市場ゲーム分析Ⅱ	1・2前①②	2		○			1	1				
	実証開発経済学	1・2前①②	2		○			1					
	金融経済学	1・2前①②	2		○			1	1				
	金融論Ⅱ	1・2後④⑤	2		○			1					
	金融工学Ⅱ	1・2後④⑤	2		○			1	1				
	動態経済分析Ⅱ	1・2後④⑤	2		○			1					
	経済数学A	1・2前①②	2		○			1					
	経済数学B	1・2後④⑤	2		○					1			
	情報科学	1・2後④⑤	2		○			1					
	データ解析	1・2前①②	2		○				1				
	ベイズ統計学	1・2前①②	2		○				1				
	医療経済学Ⅱ	1・2後④⑤	2		○			1					
	財政学Ⅱ	1・2後④⑤	2		○				1				
	産業組織論	1・2後④⑤	2		○				1				
	日本経済史Ⅱ	1・2前①②	2		○			1					
	西洋経済史Ⅱ	1・2後④⑤	2		○				1				
	環境経済学Ⅱ	1・2後④⑤	2		○				1				
	経営管理論	1・2後④⑤	2		○			1					
	組織論	1・2前①	1		○			1					
	医療サービス組織論	1・2前②	1		○			1					
	マーケティング論	1・2前①②	2		○			1					
	現代財務諸表論	1・2前①②	2		○			1					
	国際会計論	1・2前①②	2		○			1					
	現代管理会計論	1・2前①②	2		○			1					
	ファイナンス論	1・2前①②	2		○				1				
	イノベーション論	1・2後④⑤	2		○			1					
	国際経営戦略論	1・2前①②	2		○				1				
	医療サービス戦略論	1・2後④	1		○				1				
	企業変革論	1・2後⑤	1		○				1				
	意思決定会計論	1・2後④⑤	2		○			1					
	会計基準論	1・2後④⑤	2		○				1				
人的資源管理論	1・2後④	1		○			1						
医療サービスの人的資源管理論	1・2後⑤	1		○			1						
マーケティング・サイエンス	1・2後④⑤	2		○			1						
財務報告論	1・2後④	1		○			1						
国際財務報告論	1・2後⑤	1		○			1						
会計認識論	2前①	1		○			1						
会計測定論	2前②	1		○			1						
公会計論	1・2後④⑤	2		○			1						
特別研究Ⅰ	1後④⑤	2				○	12	10	1	1		集中	
特別研究Ⅱ	2前①②	2				○	12	10	1	1		集中	
特別研究Ⅲ	2後④⑤	2				○	12	10	1	1		集中	
小計(44科目)	—	6	72	0		—	12	10	1	1	0		

専 門 科 目 群 （ E c o n o m i c s  i n E n g l i s h コ ー ス）	ミクロ経済学I	1・2前①②	2			○				1					
	ミクロ経済学II	1・2後④⑤	2			○				1					
	ミクロ経済学III	1・2前①②	2			○				1					
	マクロ経済学I	1・2前①	2			○									
	マクロ経済学II	1・2後④⑤	2			○					1				
	マクロ経済学III	1・2前①②	2			○				1		1			
	計量経済学I	1・2前①②	2			○						1			
	計量経済学II	1・2後④⑤	2			○						1			
	計量経済学III	1・2後④⑤	2			○						1			
	戦略的市場ゲーム分析I	1・2後④⑤		2		○						1			
	開発経済学	1・2前①②		2		○				1					
	資源経済学	1・2前①②		2		○				1					
	選択行動分析I	1・2前①②		2		○						1			
	選択行動分析II	1・2後④⑤		2		○						1			
	金融論I	1・2前①②		2		○				1					
	金融工学I	1・2前①②		2		○						1			
	動態経済分析I	1・2前①②		2		○				1					
	医療経済学I	1・2前①②		2		○				1					
	財政学I	1・2前①②		2		○						1			
	日本経済史I	1・2後④⑤		2		○				1					
	西洋経済史I	1・2前①②		2		○						1			
	環境経済学I	1・2前①②		2		○						1			
	経済学セミナー	1前①②		2		○				2	1				オムニバス
	特別研究I	1後④⑤	2			○				6	9	1			集中
	特別研究II	2前①②	2			○				6	9	1			集中
	特別研究III	2後④⑤	2			○				6	9	1			集中
小計(26科目)		—	24	28	0	—			27	23	1	0	0		
合計(143科目)			—	38	227	0	—		27	23	1	1	0	兼37	
学位又は称号	修士(学術) 修士(経済学) 修士(経営学) 修士(政治学) 修士(公共学)		学位又は学科の分野				法学関係 経済学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
《公共学コース, 経済・経営学コース, Economics in English コース》							1学年の学期区分			6ターム					
修了要件総単位数 32単位							1学期の授業期間			8週					
共通基礎科目 6単位以上 ①Common Grounds 2単位 ②Graduate Commons ③Academic Communications 4単位以上 ④Career Development ⑤Fieldwork ②から⑤の4科目群のうち3科目群以上の中から4単位以上							1時限の授業時間			90分					
専門科目 22単位以上 ①分野間横断科目 4単位以上 ②専門科目 12単位以上 ③特別研究 6単位															
自由選択科目 4単位以上															
かつ, 必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し合格すること															

教 育 課 程 等 の 概 要														
(融合理工学部 数学情報科学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通科目	基礎代数学特論	1・2前①②		2		○								兼1
	位相幾何学特論	1・2後④⑤		2		○			1					兼1
	応用解析学特論	1・2後④⑤		2		○								
	計算機統計学 I	1・2後④⑤		2		○			1					
	応用情報数理学特論	1・2前①		2		○				1				
	情報理論特論	1・2後④⑤		2		○			1	1				【隔年】
	符号理論特論	1・2後④⑤		2		○			1	1				【隔年】
	理論計算機科学	1・2後④⑤		2		○			1					【隔年】
	人工知能	1・2後④⑤		2		○				1				
	数学情報科学専攻特別講義 I	1・2後④⑤		2		○			6	6		2		【オムニバス】
	ヒューマンセンリックイメージング科学	1・2前①②		2		○			1					
	インターシップ I	1・2前①②後④⑤		2		○			2					
	技術者倫理・知的財産	1・2後④⑤		2		○								兼7
	ベンチャービジネス論	1・2前①②		2		○								兼11
	ベンチャービジネスマネージメント	1・2後④⑤		2		○								兼1
	ベンチャービジネストレーニング (I)	1・2前①②		2		○								兼1
	ベンチャービジネストレーニング (II)	1・2後④⑤		2		○								兼1
	技術完成力	1・2後④⑤		2		○								兼1
	技術経営力	1・2前①②		2		○								兼1
	国際科学英語 I	1・2後④⑤		2		○								兼1
	国際科学英語 I	1・2後④⑤		2		○								兼1
	国際研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2				○	2					兼1
先進科学研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2				○						兼6	
先進科学特別演習 I	1・2前①②後④⑤		2				○						兼6	
先進科学セミナー I	1・2前①②		2		○								兼6	
小計(25科目)	-	0	50	0	-				10	9	0	2	0	兼28
専門科目 (数学・ 情報数 理学コ ース)	応用代数学特論	1・2後④		2		○				1				
	可換環論 I	1・2前①②		2		○			1					
	数論 I	1・2前①②		2		○			1					
	代数学幾何学	1・2前①②		2		○				1				【隔年】
	代数学特別講義 I	1・2前①②後④⑤		2		○			1	1				【隔年】
	代数学特別講義 II	1・2前①②後④⑤		2		○			1					兼1
	代数学特別講義 III	1・2前①②後④⑤		2		○			1	1				兼1
	代数学特別講義 IV	1・2前①②後④⑤		2		○			1					兼2
	群論 II	1・2前①②		2		○								兼1
	可換環論 II	1・2後④⑤		2		○			1					【隔年】
	数論 II	1・2後④⑤		2		○			1	1				【隔年】
	微分幾何学特論	1・2前①②		2		○			1					
	大域幾何構造論 I	1・2前①②		2		○				1				
	微分位相幾何学 I	1・2前①②		2		○				1				兼1
	幾何学特別講義 I	1・2前①②後④⑤		2		○			2	1		1		兼1
	幾何学特別講義 II	1・2前①②後④⑤		2		○								兼2
	幾何学特別講義 III	1・2前①②後④⑤		2		○			1					兼1
	幾何学特別講義 IV	1・2前①②後④⑤		2		○								兼2
	大域幾何構造論 II	1・2前①②		2		○			1					兼1
	微分位相幾何学 II	1・2前①②		2		○			1					兼1
	基礎解析学特論	1・2前①②		2		○			1					
	超局所解析学 I	1・2前①②		2		○			1					
	複素解析学 I	1・2後④⑤		2		○				1				
	超局所解析学 II	1・2後④⑤		2		○				1				【隔年】
	複素解析学 II	1・2後④⑤		2		○				1				【隔年】
	関数解析学 I	1・2後④⑤		2		○								兼1
	調和解析学 I	1・2前①②		2		○				1				
	解析学特別講義 I	1・2前①②後④⑤		2		○			1	2				
解析学特別講義 II	1・2前①②後④⑤		2		○				1				兼1	
解析学特別講義 III	1・2前①②後④⑤		2		○			1	1					
解析学特別講義 IV	1・2前①②後④⑤		2		○			1	2					
関数解析学 II	1・2前①②		2		○						1		兼1	
調和解析学 II	1・2後④⑤		2		○				1				【隔年】	



教育課程等の概要															
(融合理工学府 地球環境科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	ベンチャービジネス論	1・2前①②		2		○			1						兼10
	ベンチャービジネスマネジメント	1・2後④⑤		2		○									兼1
	ベンチャービジネストレーニング(I)	1・2前①②		2		○									兼1
	ベンチャービジネストレーニング(II)	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術者倫理・知的財産	1・2後④⑤		2		○				1					兼7
	技術完成力	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術経営力	1・2前①②		2		○									兼1
	国際研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2		○									
	国際科学英語 I	1・2後④⑤		2		○			3						
	国際科学英語 II	1・2後④⑤		2		○									兼1
	国際科学英語 III	1・2後④⑤		2		○									兼1
	地球環境科学専攻特別講義I	1・2前①		1		○			9						[オムニバス]
	地球環境科学専攻特別講義II	1・2前①		1		○			2	2					[オムニバス]
	地球環境科学専攻特別講義III	1・2前①		1		○			1	7					[オムニバス]
	岩石鉱物学特論-1	1前①		1		○			1						
	岩石鉱物学特論-2	1前②		1		○			1						
	地球ダイナミクス特論-1	1前①		1		○			1						
	地球ダイナミクス特論-2	1前②		1		○			1						
	層序学特論-1	1前①		1		○			1						
	層序学特論-2	1前②		1		○				1					
	地表動態学特論-1	1前①		1		○			1						
	地表動態学特論-2	1前①		1		○			1						
	地球表層観測学	1・2前①②		2		○			1	2					
	地球環境計測学	1・2後④⑤		2		○				1	1	1			
	環境マネジメント論	1・2後④⑤		2		○				1					
	先進科学研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
	先進科学特別演習 I	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
先進科学セミナー I	1・2前①②		2		○									兼6	
小計(27科目)	-		0	43	0		-		15	12	1	1	0	兼24	
専門科目 (地球科学コース)	岩石鉱物学Ⅲ	1・2前①②後④⑤		2		○			1						[オムニバス]
	岩石鉱物学Ⅳ	1・2前①②後④⑤		2		○			1						[オムニバス]
	岩石鉱物学特別講義	1・2前①②後④⑤		1		○									兼1
	同位体地球科学	1・2後④⑤		2		○									兼1
	岩石地球化学	1・2前①②後④⑤		1		○									兼1
	地球物理学ⅣA	1・2後④⑤		2		○			2						[オムニバス]
	地球物理学ⅣB	1・2前①②		2		○			1						[オムニバス]
	地球物理学ⅤA	1・2後④⑤		2		○			2						[オムニバス]
	地球物理学ⅤB	1・2前①②		2		○			1						[オムニバス]
	地球物理学特別講義	1・2前①②後④⑤		1		○									兼1
	地殻構造学Ⅳ	1・2後④⑤		2		○			1	1					[隔年]
	地殻構造学Ⅴ	1・2後④⑤		2		○			1			1			[オムニバス]
	地球探査科学	1・2前①②後④⑤		2		○									兼1
	地殻構造学特別講義	1・2前①②後④⑤		1		○			1						
	地史古生物学Ⅳ	1・2前①②後④⑤		2		○			1	1					[オムニバス]
	地史古生物学Ⅴ	1・2後④⑤		2		○			1	1					[オムニバス]
	地史古生物学特別講義	1・2前①②後④⑤		1		○					1				[隔年]
	堆積学Ⅳ	1・2後④⑤		2		○			1						
	堆積学Ⅴ	1・2後④⑤		2		○			1						
	堆積学特別講義	1・2前①②後④⑤		1		○			1						兼1
	石油地質学	1・2前①②後④⑤		2		○									兼1
	石油探鉱開発論	1・2後④⑤		2		○									兼1
	地形学Ⅳ	1・2後④⑤		2		○			1						
地形学Ⅴ	1・2後④⑤		2		○			1							
地形学特別講義	1・2前①②後④⑤		1		○				1					兼1	
生物地球化学Ⅳ	1・2後④⑤		2		○			1	1					[オムニバス]	
生物地球化学Ⅴ	1・2後④⑤		2		○			1	1					[オムニバス]	

(地球科学 専 門 科 目 コ ー ス)	水文科学	1・2後④⑤	1		○									兼1
	生物地球化学特別講義	1・2前①②後④⑤	1		○									兼1
	放射年代測定学	1・2前①②後④⑤	1		○									兼1
	生態学特論1	1・2後④⑤	2		○									兼2 【オムニバス】
	生態学特論2	1・2後④⑤	2		○									兼2 【オムニバス】
	行動生態学	1・2後④⑤	2		○									兼1
	生物群集動態論	1・2後④⑤	2		○									兼1
	系統解析論	1・2後④⑤	2		○									兼2 【オムニバス】
	多様性生物学特講2	1・2前①②後④⑤	1		○									兼1 【隔年】
	小計(36科目)	-	0	61	0	-				9	4	0	3	0
(リ モ ト 専 門 科 目 コ ー ス セ ン シ ン グ)	放射理論基礎	1・2前①②	2		○				1	1		1		
	地球観測社会システム	1・2後④⑤	2		○					2				
	地域環境リモートセンシング	1・2後④⑤	2		○				1	1				
	大気リモートセンシング	1・2後④⑤	2		○					1		1		
	陸域植生リモートセンシング	1・2前①②	2		○					1	1			
	水循環リモートセンシング	1・2前③	2		○					1				
	リモートセンサ工学	1・2前①②	2		○				2					兼1 兼2
	観測データ解析	1・2前③	2		○				1			1		
	国際研究活動 I	1・2前①②後④⑤	1				○		1					
小計(9科目)	-	0	17	0	-				4	5	1	1		兼3
専 門 科 目 (都 市 環 境 シ ス テ ム コ ー ス)	都市計画学	1・2前①②	2		○							1		
	住環境計画学	1・2前①②	2		○							1		
	都市空間設計学	1・2後④⑤	2		○					1				兼2
	都市空間経営学	1・2後④⑤	2		○				1					
	都市防災工学	1・2後④⑤	2		○				1	1				
	都市基盤工学	1・2前①②	2		○				1			1		
	コミュニティ計画論	1・2後④⑤	2		○					1				
	都市プロジェクト論	1・2後④⑤	2		○					1				兼1
	地域再生論	1・2前①②	2		○					1				
	耐震設計論	1・2後④⑤	2		○					1				
	環境エネルギーシステム学	1・2後④⑤	2		○					1				
	環境資源循環学	1・2前①②	2		○							1		
	都市数理システム工学	1・2後④⑤	2		○				1					
	通信ネットワーク工学	1・2前①②	2		○				1					
	環境エネルギー保全論	1・2前①②	2		○				2					
	都市知能情報論	1・2前①②	2		○				1					
	情報セキュリティシステム論	1・2後④⑤	2		○					1				
都市情報システム学	1・2前①②	2		○					1					
社会課題調査研究	1・2前①②後④⑤	6		○				1						
小計(19科目)	-	0	42	0	-				7	7	0	4	0	兼3
必 修 科	特別演習 I	1・2前①②後④⑤	4			○			20	18	1	1	0	
	特別研究 I	1・2前①②後④⑤	6				○		20	18	1	1	0	
小計(2科目)	-	10	0	0	-				20	18	1	1	0	
合計(94科目)		-	10	163	0	-			20	18	1	8	0	兼52
学位又は称号		修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	学位又は学科の分野			理学関係 工学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等					
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数:30単位 必修:10単位(特別演習 I 4単位, 特別研究 I 6単位) 共通科目及び専門科目:20単位以上 なお、先進科学プログラムの学生は、先進科学研究実習 I、先進科学特別演習 I、先進科学セミナー I を必修とする。									1学年の学期区分		6ターム			
									1学期の授業期間		8週			
									1時限の授業時間		90分			

教育課程等の概要															
(融合理工学府 先進理化学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	ベンチャービジネス論	1・2前①②		2		○			1						兼10
	ベンチャービジネスマネージメント	1・2後④⑤		2		○									兼1
	ベンチャービジネストレーニング(I)	1・2前①②		2		○									兼1
	ベンチャービジネストレーニング(II)	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術完成力	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術経営力	1・2前①②		2		○									兼1
	技術者倫理・知的財産	1・2後④⑤		2		○				1					兼7
	先進理化学専攻特別講義Ia	1・2前①②後④⑤		1		○			4						【隔年】
	先進理化学専攻特別講義Ib	1・2前①②後④⑤		1		○			3	3					【隔年】
	先進理化学専攻特別講義IIa	1・2後④		1		○			3	4	1	2			
	先進理化学専攻特別講義IIb	1・2後⑤		1		○			4	6					
	先進理化学専攻特別講義IIc	1・2前①②後④⑤		1		○			7	10	1	2			
	先進理化学専攻特別講義IIIa	1・2前①②後④⑤		1		○			3	6					【隔年】
	先進理化学専攻特別講義IIIb	1・2前①②後④⑤		1		○			5	3		1			兼2
	先進理化学専攻特別講義IVa	1・2前①②後④⑤		1		○			5	3		1			【隔年】
	先進理化学専攻特別講義IVb	1・2前①②後④⑤		1		○			5	2		1			【隔年】
	先進理化学専攻特別講義IVc	1・2前①②後④⑤		1		○			3	3		1			【隔年】
	先進理化学専攻特別講義IVd	1・2前①②後④⑤		1		○			3	3		3			【隔年】
	先進理化学専攻特別講義Va	1・2前①②後④⑤		1		○			1	3					【隔年】
	先進理化学専攻特別講義Vb	1・2前①②後④⑤		1		○			3	1					【隔年】
	先進理化学専攻特別講義Vc	1・2前①②後④⑤		1		○			2		2				【隔年】
	先進理化学専攻特別講義Vd	1・2前①②後④⑤		1		○			2	2					【隔年】
	国際科学英語I	1・2後④⑤		2		○									兼1
	国際科学英語II	1・2後④⑤		2		○									兼1
	国際研究実習I	1・2前①②後④⑤		2				○	5						
	インターンシップI	1・2前①②後④⑤		2				○	5						
	学内インターンシップI	1・2前①②後④⑤		2				○	5						
	先進科学研究実習I	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
	先進科学特別演習I	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
	先進科学セミナーI	1・2前①②		2			○								兼6
	小計(30科目)	-		0	45	0		-		49	46	3	10	0	
専門科目(物理学コース)	解析力学	1・2後④⑤		2		○			1						【隔年】
	物性実験物理学	1・2前①②		2		○				1					【隔年】
	一般相対論	1・2前①②		2		○			1						【隔年】
	相対論的量子力学	1・2後④⑤		2		○				1					【隔年】
	ゲージ場の理論	1・2後④⑤		2		○				1					【隔年】
	凝縮系物理学	1・2前①②		2		○			1						
	宇宙物理学概論	1・2前①②		2		○			2						【オムニバス】
	物性理論物理学	1・2前①②		2		○			1						
	素粒子論I	1・2後④⑤		2		○			1						【隔年】
	素粒子論II	1・2前①②		2		○				1					【隔年】
	高エネルギー物理学	1・2後④⑤		2		○			1						
	宇宙線物理学	1・2後④⑤		2		○			1			1			【オムニバス】
	宇宙物理学I	1・2後④⑤		2		○			1						
	宇宙物理学II	1・2後④⑤		2		○									兼1
	原子核理論I	1・2後④⑤		2		○			1						【隔年】
	原子核理論II	1・2後④⑤		2		○			1						【隔年】
	固体物性論	1・2後④⑤		2		○			1						【隔年】
	凝縮系の量子論	1・2前①②		2		○			1						【隔年】
	電子物性物理学I	1・2後④⑤		2		○				1					【隔年】
	電子物性物理学II	1・2前①②		2		○				1					【隔年】
	光物性物理学	1・2後④⑤		2		○				1					【隔年】
	量子伝導物理学	1・2前①②		2		○			1						【隔年】
	非線形物理学	1・2前①②		2		○					1				
	基礎物理学特別講義I	1・2前①②後④⑤		1		○			1						【隔年】
	基礎物理学特別講義II	1・2前①②後④⑤		1		○			1						兼1
	計算物理学特別講義I	1・2前①②後④⑤		1		○			1						兼1
	計算物理学特別講義II	1・2前①②後④⑤		1		○			1						兼1
	凝縮系物理学特別講義I	1・2前①②後④⑤		1		○			1						兼1
	凝縮系物理学特別講義II	1・2前①②後④⑤		1		○				1					兼1

専門科目 (物理学コース)	凝縮系物理学特論Ⅰ	1・2前①②後④⑤	1		○			1				兼1	【隔年】	
	凝縮系物理学特論Ⅱ	1・2前①②後④⑤	1		○			1				兼1	【隔年】	
	素粒子論Ⅲ	1・2後④⑤	2		○			1	1				【オムニバス】	
	粒子線物理学	1・2前①②	2		○			2		1			【オムニバス】	
	放射線反応論	1・2前①②後④⑤	2		○							兼2	【オムニバス】	
	宇宙物理学Ⅲ	1・2前①②	2		○			1				兼1	【オムニバス】	
	宇宙物理特論	1・2前①	2		○			1					【隔年】	
	原子核理論Ⅲ	1・2後④⑤	2		○			1					【隔年】	
	核物性論	1・2後④⑤	2		○			1					【隔年】	
	物性理論物理学特論	1・2後④⑤	2		○			1					【隔年】	
	強相関電子系物理学	1・2前①②	2		○			1					【隔年】	
	電子物性実験物理学	1・2後④⑤	2		○				2				【オムニバス】	
	光物性量子伝導物理学	1・2後④⑤	2		○			1						
	非線形実験物理学	1・2後④⑤	2		○					1				
	固体物理学特論	1・2前①②	2		○					1				【隔年】
	基礎物理学特別講義Ⅲ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】
	基礎物理学特別講義Ⅳ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】
	計算物理学特別講義Ⅲ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】
	計算物理学特別講義Ⅳ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】
	凝縮系物理学特別講義Ⅲ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】
凝縮系物理学特別講義Ⅳ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】	
凝縮系物理学特論Ⅲ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】	
凝縮系物理学特論Ⅳ	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	【隔年】	
小計(52科目)	-	0	88	0	-		11	6	0	2	0	兼11		
専門科目 (物質科学コース)	先端光計測特論	1・2後④⑤	2		○			1					兼1	
	量子光学	1・2前①②	2		○			1						
	分子物理学特論Ⅰ	1・2後④⑤	2		○			1						
	分子物理学特論Ⅱ	1・2前①②	2		○			1		1				
	光物性科学特論	1・2前①②	2		○				1					
	分子機能デバイス工学特論	1・2後④⑤	2		○								兼2	
	半導体デバイス工学特論	1・2前①②	2		○								兼2	
	量子輸送物性特論	1・2前①②	2		○			1						
	量子多体物理学特論	1・2前①②	2		○			2						
	磁性物質科学特論	1・2前①②	2		○				1					
	量子輸送科学特論	1・2前①②	2		○				1					
	量子計算物理学特論	1・2後④⑤	2		○			1					【隔年】	
	量子波物理工学特論	1・2後④⑤	2		○					1	1			
	ナノ空間科学特論	1・2前①②	2		○				1					
	創造物性工学特論Ⅰ	1・2後④⑤	2		○								兼1	
	創造物性工学特論Ⅱ	1・2後④⑤	2		○								兼1	
	ナノ電子デバイス物理入門	1・2前①②	2		○					1				
	分子光学	1・2後④⑤	2		○				1					
	ディスプレイ工学	1・2前①②	2		○			1						
	電子機能材料	1・2後④⑤	2		○			1						
	像物質科学	1・2前①②	2		○			1						
	感光物性論	1・2後④⑤	2		○								兼1	
	像物理化学	1・2前①②	2		○					1				
	界面電子機能工学	1・2前①②	2		○					1				
	像計測工学	1・2後④⑤	2		○					1				
	先端イメージング産業論	1・2後④⑤	2		○								兼1	
テラヘルツイメージング特論	1・2後④⑤	2		○			1		1					
画像機能材料	1・2前①②	2		○					1					
マルチメディア情報処理	1・2前①②	2		○					1					
非線形光学入門	1・2後④⑤	2		○			1							
ヒューマンセントリックイメージング科学	1・2前①②	2		○			5			1		兼1		
応用光工学	1・2前①②	2		○								兼1		
小計(32科目)	-	0	64	0	-		8	10	1	3	0	兼8		
専門科目 (化学コース)	基礎物理化学-1	1・2前①	1		○			1					【隔年】	
	基礎物理化学-2	1・2前②	1		○			1					【隔年】	
	量子化学特論-1	1・2後④	1		○				1				【隔年】	
	量子化学特論-2	1・2後⑤	1		○				1				【隔年】	
	物性化学特論-1	1・2後④	1		○			1					【隔年】	
	物性化学特論-2	1・2後⑤	1		○			1					【隔年】	
	量子物理化学-1	1・2前①	1		○					1				
	量子物理化学-2	1・2前②	1		○					1				
	構造物理化学Ⅰ-1	1・2前①	1		○					1			【隔年】	
	構造物理化学Ⅰ-2	1・2前②	1		○					1			【隔年】	
	構造物理化学Ⅱ-1	1・2後④	1		○					1			【隔年】	
	構造物理化学Ⅱ-2	1・2後⑤	1		○					1			【隔年】	
	先端構造解析学	1・2前①②後④⑤	1		○			1					兼1	
	先端構造化学	1・2前①②後④⑤	1		○								兼1	
	分子物性科学特論	1・2前①②後④⑤	2		○					1			兼1	
基礎無機・分析化学-1	1・2前①	1		○					2			【オムニバス】		
基礎無機・分析化学-2	1・2前②	1		○			1		1			【オムニバス】		



専 門 科 目 （ 生 物 学 コ ー ス ）	系統学特論	1・2前①②	2		○		1	1	1			兼1	【オムニバス】
	生態学特論1	1・2後④⑤	2		○		2					兼2	【オムニバス】
	生態学特論2	1・2後④⑤	2		○		1	1				兼1	【オムニバス】
	多様性生物学特講1	1・2前①②後④⑤	1		○							兼1	【隔年】
	多様性生物学特講2	1・2前①②後④⑤	1		○							兼1	【隔年】
	多様性生物学特講3	1・2前①②後④⑤	1		○							兼1	【隔年】
	行動生態学	1・2後④⑤	2		○							兼1	
	進化生物学	1・2後④⑤	2		○		1		1				
	生理生態学	1・2前①②後④⑤	2		○		2						
	生物群集動態論	1・2後④⑤	2		○							兼1	【隔年】
系統解析論	1・2後④⑤	2		○		1	1					兼1	【オムニバス】
小計(31科目)	-	0	52	0	-	9	6	1	2	0	兼11		
科 必 目 修	特別演習 I	1・2前①②後④⑤	4			○	49	44	3	13			
	特別研究 I	1・2前①②後④⑤	6			○	49	44	3	13			
	小計(2科目)	-	10	0	0	-	49	44	3	13	0		
合計(218科目)		-	10	343	0	-	49	46	3	17	0	兼72	
学位又は称号		修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	学位又は学科の分野			理学関係工学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>修了要件単位数:30単位</p> <p>必修:10単位(特別演習 I 4単位, 特別研究 I 6単位)</p> <p>共通科目及び専門科目:20単位以上</p> <p>なお、先進科学プログラムの学生は、先進科学研究実習 I, 先進科学特別演習 I, 先進科学セミナー I を必修とする。</p>						1学年の学期区分			6ターム				
						1学期の授業期間			8週				
						1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(融合理工学府 創成工学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	創成工学特別講義Ⅰ	1・2前①		1		○				3					
	建築・都市と人間の歴史	1・2後④⑤		2		○					1				
	建築環境計画理論	1・2後④⑤		2		○					1				
	構造信頼性理論	1・2前①②		2		○					1				
	イメージングシステム特論	1・2前①②		2		○						1			
	デザイン心理学	1・2後④⑤		2		○					1				
	ベンチャービジネス論	1・2前①②		2		○									兼10
	ベンチャービジネスマネジメント	1・2後④⑤		2		○									兼1
	ベンチャービジネストレーニング(Ⅰ)	1・2前①②		2		○									兼1
	ベンチャービジネストレーニング(Ⅱ)	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術者倫理・知的財産	1・2後④⑤		2		○						1			兼7
	技術完成力	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術経営力	1・2前①②		2		○									兼1
	国際研究実習Ⅰ	1・2前①②後④⑤		2					○	3					
	先進科学研究実習Ⅰ	1・2前①②後④⑤		2					○						兼6
	先進科学特別演習Ⅰ	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
	先進科学セミナーⅠ	1・2前①②		2		○									兼6
	人工物デザイン論	1・2後④⑤		2		○					2				兼8
	プロダクトデザイン計画論	1・2前①②		2		○						1			
	エコデザイン論Ⅰ	1・2前①②		2		○						1			
	コレクティブデザイン演習A	1・2前①②後④⑤		2				○			1	1			
	コレクティブデザイン演習B	1・2前①②後④⑤		2				○			1	1			
小計(22科目)	-		0	43	0				-	10	6	0	0	0	兼32
専門科目(建築学コース)	住宅史	1・2前①		2		○					1				
	都市地域計画	1・2前①②		2		○					1	1			
	建築計画デザイン	1・2前①②		2		○					1				
	公共施設マネジメント	1・2後④⑤		2		○						1			
	環境共生・バリアフリー建築	1・2後④⑤		2		○						1			【隔年】
	公共建築設計	1・2前①②		2		○						1			
	建築設計	1・2後④⑤		2		○						1			
	設計インターンシップⅠ	1・2前①②後④⑤		2					○	3					
	設計インターンシップⅡ	1・2前①②後④⑤		2					○	3					
	建築・都市プロジェクト特論	1・2前①②		2		○						1			兼1
	建築環境シミュレーション概論	1・2後④⑤		2		○						1			
	建築デザイン演習Ⅰ	1前①②		2				○			3				
	建築デザイン演習Ⅱ	1後④⑤		2				○			3				
	建築生産情報論	1・2前①②		2		○						1			
	マトリクス構造解析	1・2前①②		2		○						1			
	信号解析学	1・2前①②		2		○									兼3
	弾塑性学	1・2前①②		2		○						1			
	構造設計Ⅳ	1・2後④⑤		2		○						1			
	構造設計Ⅴ	1・2後④⑤		2		○						1			
	建築耐震構造	1・2前①②		2		○						1			
建築防災学	1・2後④⑤		2		○									【隔年】	
建築構造デザインⅢ	1・2前①②		2					○			1				
建築構造デザインⅣ	1・2後④⑤		2					○			1				
都市防災工学	1・2後④⑤		2		○									兼2	
建築形体論理	1・2前①②		2		○							1			
小計(25科目)	-		0	50	0				-	8	8	0	1	0	兼3



科目 必修	特別演習 I	1・2前①②後④⑤	4				○		20	22		2		
	特別研究 I	1・2前①②後④⑤	6					○	20	22		2		
	小計(2科目)	-	10	0	0		-		20	22	0	2	0	
合計(113科目)			-	10	207	0	-		20	22	0	4	0	兼38
学位又は称号		修士(工学) 修士(学術)	学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等					
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数:30単位 必修:10単位(特別演習 I 4単位, 特別研究 I 6単位) 共通科目及び専門科目:20単位以上 なお、先進科学プログラムの学生は、先進科学研究実習 I, 先進科学特別演習 I, 先進科学セミナー I を必修とする。									1学年の学期区分			6ターム		
									1学期の授業期間			8週		
									1時限の授業時間			90分		

教育課程等の概要															
(融合理工学府 基幹工学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	基幹工学特別講義	1・2後④⑤		2		○			3						
	ICRC総合特別講義	1・2前①②		2		○			4	1					
	バイオメカニクス	1・2前①②		2		○			1						
	ベンチャービジネス論	1・2前①②		2		○			1					兼10	
	ベンチャービジネスマネージメント	1・2後④⑤		2		○			1					兼1	
	ベンチャービジネストレーニング(I)	1・2前①②		2		○			1					兼1	
	ベンチャービジネストレーニング(II)	1・2後④⑤		2		○			1					兼1	
	技術者倫理・知的財産	1・2後④⑤		2		○				1					兼7
	技術完成力	1・2後④⑤		2		○									兼1
	技術経営力	1・2前①②		2		○									兼1
	国際研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2				○	3						兼6
	先進科学研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
	先進科学特別演習 I	1・2前①②後④⑤		2				○							兼6
	先進科学セミナー I	1・2後④⑤		2		○									兼6
	エネルギーシステム工学	1・2後④⑤		2		○			1						
	生体運動制御工学	1・2後④⑤		2		○			1						
	電力システム特論	1・2後④⑤		2		○			1						
	数理システム	1・2後④⑤		2		○									兼1
	高周波電子工学	1・2後④⑤		2		○				1					
	計算機設計論	1・2後④⑤		2		○			1			1			
小計(20科目)	-		0	40	0	-	-	17	3	0	1	0		兼26	
専門科目 (機械工学コース)	材料創製工学	1・2前①②		2		○			1	1					兼1
	新エネルギー材料	1・2前①②		2		○			1						
	知的材料	1・2後④⑤		2		○			1						
	連続体力学	1・2前①②		2		○			1						
	基礎強度学	1・2後④⑤		2		○				1					
	応用力学特論	1・2後④⑤		2		○				1					
	材料加工学	1・2前①②		2		○				1					
	生産加工学	1・2後④⑤		2		○			1						
	マイクロ工学	1・2後④⑤		2		○			1						
	ロボット制御システム	1・2前①②		2		○				1			1		
	知的機械システム	1・2前①②		2		○				1					
	知能ロボティクス	1・2後④⑤		2		○				1					
	応用熱流体解析	1・2前①②		2		○				1					
	超精密加工学	1・2前①②		2		○			1						
	応用流体工学	1・2後④⑤		2		○			1						兼1
	応用熱流体工学	1・2前①②		2		○			1						
	航空宇宙熱流体工学	1・2後④⑤		2		○				1					
	熱エネルギー変換工学	1・2前①②		2		○				1					
	熱流体物理学	1・2前③		2		○									兼1
	エンジンベンチマーク	1・2後④⑤		2		○			1	1					兼2
小計(20科目)	-		0	40	0	-	-	9	6	0	1	0		兼3	
専門科目 (医工学コース)	生体計測工学	1・2前①②		2		○			1						
	医用画像工学	1・2前①②		2		○			1						
	光情報工学	1・2後④⑤		2		○			1						
	波動情報処理	1・2前①②		2		○						1			
	信号処理システム論	1・2後④⑤		2		○									兼1
	脳工学概論	1・2前①②		2		○			1						
	高周波デバイス概論	1・2後④⑤		2		○				1					
	通信環境システム論	1・2後④⑤		2		○				1					
	医用機器設計論	1・2前①②		2		○			1						
	放射線医学	1・2前①②		2		○									兼1
	医用診断計測学	1・2後④⑤		2		○				1					
	人間-生活環境論	1・2後④⑤		2		○			1						
	臨床生理・解剖学特論	1・2前①②		2		○			1						
	国際医工学研究実習 I	1・2前①②後④⑤		2				○	1						
	国際医工学研究実習 II	1・2前①②後④⑤		2				○	1						
	国際医工学研究実習 III	1・2前①②後④⑤		2				○	1						
	国際医工学特論 I	1・2前①②		2		○			1						
	国際医工学特論 II	1・2前①②後④⑤		2		○			1						
	小計(19科目)	-		0	36	0	-	-	7	3	0	1	0		兼2

専門科目 (電気電子工学コース)	エネルギー変換工学	1・2後④⑤	2		○			1					
	波動情報解析	1・2後④⑤	2		○			1		1			
	電磁波理論	1・2後④⑤	2		○			1					
	弾性波動デバイス	1・2前①②	2		○		1	1					
	波動応用計測	1・2後④⑤	2		○								兼1
	分子エレクトロニクス	1・2後④⑤	2		○				1				
	薄膜・表面分析特論	1・2前①②	2		○				1				
	半導体光・電子物性	1・2前①②	2		○		1	1		1			
	光・電子デバイスナノ物性	1・2前①②	2		○		1	1					
	応用光工学	1・2前①②	2		○								兼1
	フォトニクス材料マイクロ評価	1・2後④⑤	2		○								兼2
	光応用計測概論	1・2後④⑤	2		○		1						
	ハイブリッド動的システム論	1・2後④⑤	2		○				1				
	ロバスト制御理論	1・2前①②	2		○				1				
	パワーエレクトロニクス特論	1・2後④⑤	2		○		1				1		
	応用システム工学	1・2前①②	2		○				1				
	高電圧システム	1・2後④⑤	2		○								兼1
	移動通信	1・2前①②	2		○				1				
	コンピュータイメージ特論	1・2後④⑤	2		○								兼1
	自然言語(英語)の計量	1・2前①②	2		○				1				
	分散システム	1・2後④⑤	2		○				1				
小計(21科目)	-	0	42	0	-		10	6	0	3	0	兼4	
科目修	特別演習 I	1・2前①②後④⑤	4				27	19		6			
	特別研究 I	1・2前①②後④⑤	6				27	19		6			
	小計(2科目)	-	10	0	0	-	27	19	0	6	0		
合計(82科目)		-	10	158	0	-	27	19	0	8	0	兼35	
学位又は称号		修士(工学) 修士(学術)	学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査並びに最終試験に合格すること。 修了要件単位数:30単位 必修:10単位(特別演習 I 4単位, 特別研究 I 6単位) 共通科目及び専門科目:20単位以上 なお、大学院先進科学プログラムの学生は、先進科学研究実習 I, 先進科学特別演習 I, 先進科学セミナー I を必修とする。							1学年の学期区分			6ターム			
							1学期の授業期間			8週			
							1時限の授業時間			90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(総合国際学位プログラム)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究基盤科目	研究倫理	研究活動に携わる人々は、当該研究を科学的、社会的、倫理的に適切な形で進めることが求められる。そのために各人は、領域ごとの専門知識や研究方法の理解に加え、科学的に妥当で公正、かつ社会的・倫理的に適切な形で研究を進めるための具体的な方法を知り、知識生産における品質向上のために、自らの専門領域で実践する必要がある。本講義では、適切に研究を進める上で必要となる基本的な事柄と実践方法について、受講者ひとり一人が、国内外の動向を踏まえた上で受講者相互のコミュニケーションを通じた多角的な検討を行う。またその過程を通じて、自らの研究分野やテーマに適した形式を吟味し、実践できる能力を養うことを目指す。	
研究基盤科目	データサイエンス	生活に関わるデータサイエンスの応用事例を紹介し、データと社会との関わりなどからデータサイエンスの必要性について解説する。そして、実験や調査などの結果を分析するうえで有用なデータサイエンスの基本的な考え方、主な分析手法である統計解析の基本、データ間の類似度、データのクラスタリングについて解説を行い、目的に応じたデータの分析手法の選択が可能となるように基礎的な知識を習得する。本講義では、これらを理解した上で、具体的な課題に関するデータに対して、どの分析手法が適切であるのかを判断し、データ分析、出力結果の解釈、そこから得られる価値創造につながる結論を導くことができるようになることを最終の学習目標とする。	
研究基盤科目	環境科学と倫理	国際的な環境問題を解決するためには、環境に対して、どのような価値を見出し、行動していくかという環境倫理の視点は不可欠である。自然を保護する環境思想は、歴史的に世界各地で見られたが、加速する環境問題と共に数多くの環境倫理が生まれてきた。本授業では、1. 環境倫理の歴史的な変遷 2. 環境倫理の思想とその展開 3. 地域とグローバルな環境倫理 4. 環境教育の4点について、具体的な事例を示しながら講義および討論を行う。これらを通じて、環境倫理がどのように実社会に反映されてきたのかを学ぶ。さらに、持続的社會を実現するために将来求められる環境倫理について考察する。	
研究基盤科目	人の移動と倫理	グローバル化の進展に伴い、人の移動はその距離や規模の上で大きく変化した。またその移動は必ずしも自発的なものとは限らず、他律的な人の移動も度々生じてきた。本科目では、このような多様な人の移動について、社会状況の変化と様々な研究領域における研究動向について講義を行う。また代表的な質的・量的な調査方法を紹介した上で、これらを実施する上で必要な倫理上の配慮などについても議論を通じて見識を深めることを目標とする。	
研究基盤科目	科学技術と倫理	現代社会は、科学技術をさまざまなレベルで活用する、「知識基盤型社会」と解しうる。しかし、その一方で科学技術は、その運用を誤ると、生命や環境を破壊してしまう危険性をも孕んでいる。また、科学技術を開発し運用するのはいつの時代も人間である。その意味で科学技術も、価値の問題と決して無縁ではない。これは、とりわけ生命操作や、情報技術、エネルギー問題などのシーンで顕在化してきている。このように、現代における科学技術の倫理的課題は多角的に存在するが、本講義では特に科学者・技術者の観点から、現代的な論点を題材に、具体的に読み解いていくことを目的とする。これらを通じて、科学技術の社会的側面に対する、より立体的な視点を獲得することが期待される。	
研究基盤科目	統計分析	統計的因果推論の観点から実験研究及び観察研究で用いられる統計分析手法について学習する。より具体的にはデータの取得・整形・分析・報告までの統計分析の全体的プロセスについて、バイアス、交絡、交互作用への対応としての研究デザインと多変量解析、マルチレベル解析、傾向スコア法、操作変数法などの具体的な方法との関連性、多重代入法等の欠測処理の方法、図表化等の結果の報告の仕方までを取り扱う。特に政策及び評価の場面に焦点を当て、エビデンスを支えるための事例に応じた統計分析の利用の仕方について講義を行うことにより研究論文等を批判的に考察するための知識を修得するとともに、統計ソフトウェアであるR等を用いた演習を組み込むことで、学習した統計分析の方法を実際に運用する能力を獲得し、それらを今後の研究や実践に応用できるようになることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 基盤 科目	質的分析	現場を記述することの意味、調査者の立ち位置をどう意識するかについて、文化人類学、社会学、民俗学、宗教学などの成果(民族(俗)誌、ライフストーリー、ノンフィクションなど)をもとにして、調査者の視点と分析そして記述のあり方について考える。合わせて、受講者が想定する調査の現場にアプローチするには、準備に何が必要かを考えること、そして事前の予備調査で何を把握すべきかを考えることにより、調査計画の立て方および現場へのアプローチを具体的に考える。その上で、フィールドノートのあり方、そして調査成果を記述していくことの意味を考える。また調査成果を記述する際に必要な研究倫理のあり方についても合わせて検討を行い、質的調査を行うものの心得について身につけることも合わせて目的とする。	
研究 基盤 科目	データマイニング	本講義の目的は、言語や数値など大規模なデータ群に対して、そこに含まれている潜在的な傾向や法則性などの有用な知見を獲得するための解析手法について基礎的な概念を理解することである。近年、情報通信や計測技術の進展により大容量のデータが集積され、それに対する価値創造や新たなサービスの創出が期待されている。特に社会調査などから得られるテキストデータについての解析手法を学習することは重要である。講義では、解析例として具体的なデータ群に対する頻出パターン、回帰分析、クラスタリングについて解説し、ビッグデータと機会学習によるデータマイニングについての実用例について紹介する。解析を理解する為の最小限の数理的な知識は都度説明し、データマイニングの概念を理解し、利用出来るようになることを学習目標とする。	
研究 基盤 科目	ワークショップ方法論	環境や科学など日常生活に関する様々なトピックの中からテーマを決めて、ワークショップを実施する方法について実践的に学ぶ。ワークショップでは参加者に興味関心を持たせ能動的な参加を誘起すること、グループワーク等の相互作用の中で学びにつなげる事が重要である。テーマの選択から、目的を明確にして価値を共有する方法、グループ討論により思考の発散と収束へと導く方法、アイデアの整理・分析・取捨選択などについて学ばせ、企画・運営・評価のあり方について考えさせる。ワークショップにおける俯瞰的なものの見方、資料準備や成果の可視化、参加者を引き付ける問い掛け等について学ぶ。創る事で学ぶ活動を通じて、ワークショップを成功させるためのスキルを身につける事を目標とする。	
学際 認識 科目	アイデアソン I	アイデアソンとは、アイデア(Idea)とマラソン(Marathon)を掛け合わせた造語であり、新しいアイデアを生み出すために、さまざまな研究分野の学生が集まって、グループ学修やディスカッションを通じて、研究内容のブラッシュアップを行う仕組みである。「アイデアソンI」は一年次の学生を対象とし、共通テーマを設定しながら、各自の専攻する研究内容を相互に突き合わせて検証し、課題解決に向けたアイデア出しと絞り込みを進めていくことを目的とした演習を行う。	共同
学際 認識 科目	アイデアソン II	アイデアソンとは、アイデア(Idea)とマラソン(Marathon)を掛け合わせた造語であり、新しいアイデアを生み出すために、さまざまな研究分野の学生が集まって、グループ学修やディスカッションを通じて、研究内容のブラッシュアップを行う仕組みである。「アイデアソンII」は二年次の学生を対象とし、修士論文作成を目標に、各自の専攻する研究内容を相互に突き合わせて検証し、課題解決に向けたアイデア出しと絞り込みを進めていくことを目的とした演習を行う。	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学際認識科目	移民・難民研究特論	<p>移民・難民を研究するとはどういう意味があるのか。またどういう方法が取り得るのか。歴史学、社会学、政治学、文化人類学といった人文社会科学の諸領域における移民・難民に関する主要な先行研究群をケーススタディとしてとりあげ、研究視角、利用可能な史資料や方法論について議論を行う。議論を通じて、これまでの研究を整理するとともに、残された課題やまだ試されていない方法などについての認識を深め、受講者それぞれの研究手法の向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(1 小澤 弘明／1回)</p> <p>歴史学・国際関係論研究の立場から、移民・難民の歴史とグローバルな比較研究の方法を学修する。</p> <p>(2 村岡 英裕／1回)</p> <p>社会言語学研究の立場から、移民・難民における言語の接触と変容が移民のアイデンティティに与える影響について学修する。</p> <p>(6 福田 友子／2回)</p> <p>移民研究の立場から、移民・難民研究の現状と課題について論じる。特にパキスタン移民を具体例とする。</p> <p>(7 小林 聡子／2回)</p> <p>言語人類学の立場から、言語・人種・民族に関わるイデオロギーが移民・難民の生活をどのように規定しているかを論じる。</p> <p>(13 佐々木 綾子／2回)</p> <p>移民・難民と並ぶ第三の移動形態である人身取引を素材に、移動する人びとの福祉の現状と課題について論じる。</p>	オムニバス
学際認識科目	科学技術社会特論	<p>現代社会の特質の一つは、科学技術がいたるところに浸潤し、社会全体とさまざまなレベルで相互作用をしている点にある。たとえば、最新のテクノロジーが社会の在り方を変え、また研究費の配分や規制政策を通じて、科学技術は政治的な影響を受けている。さらに、社会運動によってGMOなどの新しい技術に人々の疑念が投げかけられることもある。このような時代背景を踏まえ、科学技術と社会の関係を、多角的に検討することが本講義の目的である。具体的には、科学技術と社会の界面に生じる論点を、文理にまたがる専門分野の異なる教員が、それぞれ別の角度から光を当て、社会的な事例を通じて議論を進めていく。これらにより、科学技術と社会に関する問題を、自ら設定したフレームで切り取る力を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(3 神里 達博／2回)</p> <p>科学技術社会論(Science, Technology and Society)という学問分野の広がりや性格について理解する。</p> <p>(4 串田 正人／2回)</p> <p>科学技術と社会との相互関係について、主に工学分野においてどのような課題が認識されているかを学修する。</p> <p>(8 東島 仁／2回)</p> <p>科学技術と社会との相互関係について、主に生命医科学の分野においてどのような課題が認識されているかを学修する。</p> <p>(9 三野 弘文／2回)</p> <p>科学技術と社会との相互関係について、主に理学分野においてどのような課題が認識されているかを学修する。</p>	オムニバス

## 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学際認識科目	環境科学特論	<p>20世紀の後半、人々の活動が拡大するにしたがって、環境問題が深刻化してきた。環境問題は自然環境のみならず、経済、医療、人口、技術進歩などと関連し、極めて複雑化している。したがって、環境問題解決のためには、人文社会と科学を統合した知識を身につけると共に、俯瞰して取り組む必要がある。本授業では、生物多様性消失、地球温暖化、医療問題など、様々なテーマを取り上げる。そこで、世界各地で起こっている環境問題の発生のメカニズムと現状の課題を人文社会および自然科学の双方から分析する。地域社会からグローバルな空間まで、多様な空間スケールにおいて、その解決方法を具体的に提案する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)                      (5 渡邊 誠/2回)                      人間の環境に対する働きかけの一つの方法として、環境デザインという視点について学修する。                      (10 永瀬 彩子/2回)                      都市環境デザイン研究の立場から、都市環境について論じるさいの基本的視点と課題について学修する。                      (11 徳永 留美/2回)                      照明・色彩や感性といった人間の周辺環境に対する認識を把握する方法を具体的に分析する。                      (9 鈴木 雅之/2回)                      都市・建築計画という視点から、環境政策や環境影響評価について必要な基本的な課題について学修する。</p>	オムニバス
学際認識科目	知識経済社会論	<p>知識や情報の世界的差異を基軸に資本蓄積を行う経済のあり方を知識経済と言う。これは、知識資本主義やニューエコノミーという言葉でも表現されるが、産業革命以来、現在のIndustry4.0と呼ばれる経済のあり方とその持続可能性を規定している。世界的にも先進資本主義国だけでなく、資源に依存していた産油国の知識経済化、ASEAN地域の知識経済化、中国・韓国の技術革新政策の展開等に表現されている。日本でも、知財立国論や無形資産大国論など、知識経済の確立とその輸出が課題として認識されている。こうした知識経済社会を、産業資本主義の成立以降の時間軸に沿った歴史の変遷、世界各地の知識経済の空間軸に沿った国際比較、という二つの視点から分析する。</p>	
学際認識科目	ダイバーシティからみた社会課題	<p>家族社会学の観点から、ダイバーシティからみた社会課題について多角的に考察する。男女共同参画、障がい者支援、セクシュアルマイノリティ支援など、ダイバーシティ社会を実現するために取り組まれている諸課題は、歴史的にどのように構築され、グローバル化や少子高齢化のなかでどのように社会課題として認識され、議論されてきたのか、家族やジェンダーに関する具体的なテーマを挙げながら考察していく。家族やジェンダー、マイノリティに関する理論とそのアプローチについて、社会学の文献のみならず隣接分野の文献をあわせて取り上げる。ダイバーシティと社会課題について、複数専門領域にかかわる文献から得られる理解と、社会の現実や変動過程を重ね合わせることで多角的に理解していく。</p>	
学際認識科目	グローバル化と農業	<p>90年代から加速してきた、農業及び関連産業のグローバル化により、様々なグローバル 이슈が顕在化してきて久しい。元来、農業は文化的要素が強く、地域の気候や地形などが農業様式の成立に大きな影響を与えてきた。しかしながら、急速な都市化、人口の大都市への偏在が世界中で見られるようになった現在、世界共通での、省資源で持続可能な食料生産体系が求められている。本授業では、1、農業及び関連産業のグローバル化の実態と課題、2、世界の各地域で農業様式が成立してきた過程と要因、3、都市及びその近郊における新しい食料生産体、について解説し、将来的に持続可能で平等な食資源配分を実現するための方策について多面的に考察する。</p>	
学際認識科目	持続可能な地域コミュニティのデザイン	<p>人口減少や超高齢化等による地域社会の衰退の動向に対し、施設や空間づくりに頼る活性化ではなく、人と人のつながりやコミュニティの力を構築することで、コミュニティを活性化し持続可能な地域社会を構想するための考え方やあり方を考察する。地域コミュニティの課題、社会システムやメカニズム、地域資源等を高度かつ学際的に理解し、新たな社会動向も踏まえつつ、これからの持続可能な地域コミュニティのデザインとマネジメントについて、地域コミュニティの現場の実践をケーススタディにより学術的に分析する。また、複雑化する地域課題解決のための適切なコミュニティデザインを実現するための高度かつ学際的な知識と能力を、演習を通して習得する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学際認識科目	自然科学総合実験	自然科学の理解に必要となる基礎及び応用に関する知識を実験を通じて学ぶ。自然科学に関する現象は物理量の計測によって測定・観測される。その実験的手法や測定機器の扱い等について学び、力学・電磁学等の基礎となる現象の観測から、エネルギー・環境に関する計測、化学反応における熱現象の計測や、顕微鏡による生体及び岩石表面の観察などを行う。身の回りの自然現象について物理量の計測を基に、データ解析を行い、グラフや数式による表現や解釈方法について学び、数理モデルを用いて説明できるスキルを身につける。理系科目を横断的に学ぶことにより、既成の学問（物理・化学・生物・地学）を超えて、現状課題との繋がりや理解を深め、物事を定量的に捉えることを目的とする。	
学際認識科目	科学技術のための政策論	本講義では、科学技術政策が歴史的にいかなる経緯で成立したのかを確認した上で、近年の科学技術政策の状況について、イノベーション、産学連携といった観点も含め、考察を進めていく。具体的には、日本や米国における科学技術政策の発展や、冷戦期の科学、またポスト冷戦期の科学技術の在り方などを、順に見ていく。また、イノベーション政策がいかなる経緯で生まれ、科学技術政策とどのような関係にあるのか、さらにはリスクマネジメント、レギュラトリーサイエンスなどとの関わりについても、一定程度、検討を行う。学習目標としては、科学技術政策の発展における、基本的なトピックについて自ら説明ができ、イノベーション政策など、関連する政策との関係を議論できるようになることを目指す。また、実際に科学技術政策に関わる実務経験のある専門家や研究者を講義に招くことで、単なる知識にとどまらない立体的な理解を促す。	
学際認識科目	空間移動と階層移動	空間移動に代表される移民研究と、国民国家に埋め込まれた階級間における移動（上昇・下降・再生産）を研究する社会階層論は、グローバル化に伴う国境を超えたヒト、モノ、カネ、情報の移動が加速化するにつれ、両研究群の関連性が高まってきている。両研究群は不平等と生活機会という点を共通に注目してきたため、本授業ではこの視点からこれらの研究群の統合を試みる。本授業の前半では19・20世紀の社会階層論と移民研究のそれぞれ古典・現代の理論、後半ではこの理論的土台からどのように両研究群を統合する研究が21世紀に出現しているか概説する。本授業では、グローバルな領域で構築されつつある社会階層の中で国民国家の枠を超えた人間生活の営みを分析する視点、知識を獲得し、それを元に関心あるテーマを捉え直すことを達成目標とする。	
学際認識科目	人の移動と言語の変容	言葉は固定的なものではなく、社会の中で常に変化していくものである。逆に言葉の変化に注目することで、社会の変化の有り様についても理解を深める事ができる。このような社会と言語の変容の関係を、特にグローバル化に伴う人の移動という観点と関連して検討することが本科目の趣旨である。ケーススタディを踏まえながら、言語変容についての知識を習得すると共に、その調査方法に関する知識の獲得を目指す。	
学際認識科目	グローバル化と教育	本授業では、グローバル化する社会において多様化し続ける教育の場で、どのような課題が生じるのかに関し、教育人類学的視点からアプローチしていく。特に、教育システム、カリキュラム、学習環境においてマイノリティ化される生徒らについて、言語・文化・身体・能力・ジェンダー・セクシュアリティ等の交差性の観点から批判的理解を深める。特定の学習環境における教職員、保護者、児童生徒間での相互行為に着目しながら、どのように自己や他者との関係性や立場性、そしてイデオロギーが形成されていくのか、言語的および空間的なやりとりから考察していく。その際、エスノグラフィ、メンタルマップ、ナラティブおよび対話の分析など、様々な質的・解釈的研究方法の解説を取り入れながら学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学際認識科目	人の移動と雇用の法	<p>社会・経済のグローバル化が進むなかで、国際的な人の移動が活発になり、人の働き方や雇用とその法制度の再構築が求められている。日本の事例に限ってみても、グローバルな企業間競争や広く世界で働くにあたって必要となる雇用制度の在り方が模索されるなかで、「働き方改革」が政策課題とされ、例えば「特定高度専門業務・成果型労働」として労働賃金と労働時間について、旧来の考え方を変更する制度が導入された。他方、人口減少を背景とする労働力不足に対応するため、外国人労働者を受け入れが議論され、そのための諸制度の整備が課題となっている。本授業では、日本社会の変化を人の移動と雇用の観点から検討し、人事労務管理や労働法の立場から、諸課題の理解を深める。日本の課題を考察するためにドイツなどの諸外国についても言及しつつ、人の移動を雇用・労働関係の関係からとらえなおしていく。</p>	
学際認識科目	デザイン思考論	<p>イノベーションのための課題発見・課題解決の思考プロセスである「デザイン思考(Design Thinking)」について、方法論・理論として体系的に、具体的事例のケーススタディを通じて実践的に理解していく。この授業では、サービスやプロダクトのデザインで用いられている、ユーザーを理解した上で行う仮説提示と検証を通じて、初期段階では設定されていないなかった第二段階の戦略や代替策を特定し、新たに問題の再定義することで、イノベティブな課題解決を提示するというデザイン思考の考え方を習得する。このようなクリエイティブなデザイン思考を課題発見・解決に応用する手法として習得することで、自らの課題発見・課題解決能力を高めることを目的とする。プロダクトデザイン、サービスデザインの具体的な事例研究や実践的な分析を通じて学んでいく。</p>	
学際認識科目	宗教と科学と社会	<p>本授業は現代社会における「宗教」と社会と科学の関係について、学問領域を超えたトランスディシプリナリーな観点から多角的に考察していく。特に近代以降の「宗教」のあり方やイメージの変化を探りながら、現代日本の事例を中心に、「宗教とテクノロジー」、「宗教と政治」、「宗教と暴力」、「宗教と新自由主義」等のテーマを中心に、政治活動する宗教団体、宗教原理主義が原因とされる事件などを考察していく。また、近代化とともに現れた、再構成された非科学的・非論理的な思想や実践（オカルト、あるいはオカルティズムと呼ばれる）についても取り上げ、社会・文化的、経済的、政治的な要因、国外からの影響・国外との交流を念頭にその現象の多面性を考察する。宗教と科学と社会の関係について、日本の事例を通して、様々な学問領域での研究方法の進展と理論的展開を踏まえながら、宗教の現代社会的な役割を批判的に考察していく。</p>	
学際認識科目	移動とアイデンティティ	<p>グローバリゼーションに伴い、人々の生活はどのように変化してきたのか。本科目ではグローバル化に伴う人の移動に注目し、その生活の変化を辿る。居住のあり方、労働の変化、異文化接触とそれへの適応といった変化に注目する。またこのような生活状況の変化によって生じる、個人や集団の帰属意識や自己認識の変化をアイデンティティの変容と捉え、その変化の諸相を捉えるための研究手法の理解と近年の研究動向について知識の獲得を目標とする。</p>	
学際認識科目	グローバル化と都市計画	<p>グローバル化が急速に進んでいる近年、少子高齢化、都市への人口集中など社会の変化に対応した新しい都市のあり方を検討することは重要な課題である。一方で、地球温暖化などによる災害などが多発しており、都市レベルで対応するべき環境問題は数多く存在する。グローバル化した都市においては、環境負荷に配慮し、持続的・安心安全な街づくりを行う必要がある。本講義では、グローバル化と都市計画について、環境の視点を重視しながら、次の3点において、授業とディスカッションを通じて学んでいく。1. 都市のグローバル化の変遷と現状の課題 2. グローバル化の社会に対応する都市政策と制度 3. 環境に配慮した街づくり</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学際 認識 科目	応用倫理学	現在そして未来における科学技術の適切さを確保するために、直接・間接的な利害関係者や当事者との関わりを重視した形で研究開発を進めることが大きな注目を集めている。その狙いは、研究から生まれた知見、そして社会実装時あるいは研究の過程そのものの社会的、科学的、倫理的な妥当性を向上させることであるが、実践や必要性自体について検討すべき事項も多い。本講義では、そのような取組が盛んな生命医科学領域における国内外の動向を手がかりに、研究者と一般の人々との協働をめぐる状況を探り、必要性や実現をめぐる諸課題を検討する。その過程を通じて、現代における科学技術と社会の良好な関係のあり方を吟味し、その構築方法を探る力を習得することを目指す。	
実践 ・ 演習 科目	共同研究実践	「共同研究実践」は、プロジェクトに合わせたグループ研究を遂行するために必要な知識、スキルを修得するとともに、実践を通じて学際的知識を深めることを目指す科目となる。受講生は数人単位の小グループを構成し、提示された課題に対して、それぞれの専門的知識やスキルを用い、協力して課題解決に向けて検討を行う。最終的に成果に関するプレゼンテーションならびに報告書として取りまとめることで、これらの技術の向上も図る。	
実践 ・ 演習 科目	ソーシャル／グロー バル・インターン シップ	「ソーシャル／グローバル・インターンシップ」は、「共同研究実践」で培った知識、ノウハウを深化することを目的とした科目となる。国内外の企業・団体において、具体的な課題の解決を目指した中長期にわたるインターンシップを行う科目となる。現地実践を通じて、知識やスキルの現場での応用技法を学ぶと共に、教員ならびに他の受講生との議論をベースにした事前学修、事後指導を伴ったカリキュラムとなり、知の社会化、社会実装を理論的にも学んでいく。	
実践 ・ 演習 科目	ソーシャル／グロー バル・ボランティア	「ソーシャル／グローバル・ボランティア」は、「共同研究実践」で培った知識、ノウハウを深化することを目的とした科目となる。国内外の公共団体・NPO・NGO等において、具体的な課題の解決を目指した中長期にわたるボランティア活動を行う科目となる。現地実践を通じて、知識・の現場での応用のあり方を学ぶと共に、教員ならびに他の受講生との議論をベースにした事前学修、事後指導を伴ったカリキュラムとなり、知の社会化、社会実装を理論的にも学んでいく。	
実践 ・ 演習 科目	TDS研究実践演習 I	トランスディシプリナリー・スタディーズの観点から、複数の学問分野を横断した学知の形成を図ることを目的とした演習科目。指導教員集団や上級SULAと相談の上、学生はセルフ・デザインド・メジャーのフルプロポーザルを作成、提出する。この研究計画で定めた目標の到達のために必要な知見や技法の習得に関する研究集会を複数回実施する。最終的にその成果を報告書にまとめ単位認定を行う。	共同
実践 ・ 演習 科目	TDS研究実践演習 II	トランスディシプリナリー・スタディーズの観点から、複数の学問分野を横断した学知の形成を図ることを目的とした演習科目。指導教員集団や上級SULAと相談の上、学生はセルフ・デザインド・メジャーのフルプロポーザルを作成、提出する。学生は指導教員集団と協議の上、自身の研究計画の進捗状況、特に修士論文執筆に向けての成果と課題を確認することを目的とした研究集会を実施する。最終的にその成果を報告書にまとめ単位認定を行う。	共同
実践 ・ 演習 科目	TDS研究実践演習 III	トランスディシプリナリー・スタディーズの観点から、複数の学問分野を横断した学知の形成を図ることを目的とした演習科目。指導教員集団や上級SULAと相談の上、学生は修士論文に向けた研究計画を作成、提出する。学生はその中間段階で研究集会を主催し、自身の研究計画の進捗状況を報告し、計画達成に向けた課題の抽出とその克服に向けた議論を行う。最終的にその成果を報告書にまとめ単位認定を行う。	共同
課題 探求 科目	TDS課題探求 I	学生はセルフ・デザインド・メジャーに基づき、指導教員集団や上級SULAの助言を受けつつ、自身の履修計画を作成していく。この計画を達成するには、本プログラムで開講する科目や連携協力研究科の指定科目以外の科目、例えば大学院共通科目、他学府・研究科開講科目、あるいは海外での実地調査や海外協定校での短期プログラムを組み込む事が可能である。本科目は、そのような学生自らの計画に基づく自律的な活動について単位認定を行う。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題探求科目	TDS課題探求Ⅱ	学生はセルフ・デザインド・メジャーに基づき、指導教員集団や上級SULAの助言を受けつつ、修士論文執筆に向けた研究計画を立案していく。学生自身が提案した研究計画に基づき、研究の遂行のために必要な大学院共通科目、他学府・研究科開講科目の履修、あるいは海外での実地調査や海外協定校での短期プログラムへの参加という自律的な活動について、単位認定を行う。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 国際社会福祉論	ある国の出来事が国境を越えて、他国に大きな影響をもたらすようになった現代においては、多様な社会現象が人々の生活にも影響をもたらす。文献購読、社会政策や法制度および事例の検討を通し、紛争やグローバル格差、人の国際移動等によってどのようなことが課題となり、どのような対応が実際にはなされているのか、国際福祉的な観点から学ぶ。グローバルな福祉課題に関連する文献や事例検討を通し、身近に起きている社会現象の分析に応用しつつ、各課題に対する援助実践の基礎を理解できるようになる。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 国際社会福祉論演習	ある国の出来事が国境を越えて、他国に大きな影響をもたらすようになった現代においては、多様な社会現象が人々の生活にも影響をもたらす。文献購読、社会政策や法制度および事例の検討を通し、紛争やグローバル格差、人の国際移動等によってどのようなことが課題となり、どのような対応が実際にはなされているのか、国際福祉的な観点から学ぶ。グローバルな福祉課題に関連する文献や事例検討を通し、身近に起きている社会現象の分析に応用しつつ、各課題に対する援助実践の基礎を理解できるようになる。前期の授業を踏まえて、より高度な内容を扱う。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 社会階層論	社会階層論一階級一をもとに社会を分析する枠組みは、人文・社会科学の領域において根本的なアプローチの一つである。本文献購読ゼミでは、社会階層論の根幹を理解する上での基礎となる文献から周辺領域（ジェンダー、人種、教育、家族、労働等）と交錯する文献まで網羅する。社会階層論に関する専門的な知識を身につけ自らの研究への理論的に応用する能力を身につけることを目指す。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 社会階層論演習	社会階層論一階級一を基に社会を分析する枠組みは、人文・社会科学の領域において根本的なアプローチの一つである。この演習では、前期で獲得した理論的知識を土台に、より現代の文献を購読していく。取り上げる文献は初回に参加者の専門もふまえて決定する。社会階層論に関する専門的な知識を身につけ自らの研究へ理論的に応用する能力を身につけることを目指す。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 移動の人類学	本授業は、グローバルな視点から人間関係を検討し、グローバリゼーションの社会的、政治的、経済的側面がジェンダーや他の社会諸関係に与える影響に焦点を当てる。グローバルな世界における労働等を検討することを通じて、グローバルな政治経済体制と日常生活との関係を解明する。ここで取り上げるのは、人種、エスニシティ、階級、セクシュアリティを含む不均衡の構造である。この授業を通じて、1)人類学の視点から人間の諸経験を批判的に読解・分析・記述すること、2)人間の経験をより広汎なグローバルな資本制等の過程に埋め込んで分析すること、3)この主題の理解に関連する素材を総合すること、が可能となる。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 移動の人類学演習	本授業は、グローバルな視点から人間関係を検討し、グローバリゼーションの社会的、政治的、経済的側面がジェンダーや他の社会諸関係に与える影響に焦点を当てる。グローバルな世界における労働等を検討することを通じて、グローバルな政治経済体制と日常生活との関係を解明する。ここで取り上げるのは、人種、エスニシティ、階級、セクシュアリティを含む不均衡の構造である。この授業を通じて、1)人類学の視点から人間の諸経験を批判的に読解・分析・記述すること、2)人間の経験をより広汎なグローバルな資本制等の過程に埋め込んで分析すること、3)この主題の理解に関連する素材を総合すること、が可能となる。前期の授業を踏まえて、より高度な内容を扱うとともに、主題に関連する英語文献の読解につとめる。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題探求科目 人文公共学府開設科目	多文化共生論	まず国家と民族、国家と移民についての文献を輪読し、理論的枠組を作る。次に多民族国家において実施されている様々な言語、教育政策を比較・検討しながら、複数の文化・民族集団を政治的に統合するための政策とそれによって惹起される諸問題について議論していく。最後に日本における中国人新移民を例に、個人・集団レベルに起こる文化適応の過程を踏まえ、日本における外国人政策との関連から、多文化共生のありかたについて考える。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	多文化共生論演習	まず国家と民族、国家と移民についての文献を輪読し、理論的枠組を作る。次に多民族国家において実施されている様々な言語、教育政策を比較・検討しながら、複数の文化・民族集団を政治的に統合するための政策とそれによって惹起される諸問題について議論していく。最後に日本における中国人新移民を例に、個人・集団レベルに起こる文化適応の過程を踏まえ、日本における外国人政策との関連から、多文化共生のありかたについて考える。前期の授業を踏まえて、より高度な内容を扱う。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	公共政治論	「動揺するデモクラシー」がテーマである。近年、先進諸国における格差の拡大、地域社会の衰退が指摘され、ポピュリズム躍進の一因ともされる。他方、グローバリゼーションの進む現在、地域の役割が逆説的に脚光を浴びており、政治的な革新の源泉ともなっている。社会の分断を防ぎ、共生社会を創るために、コミュニティやソーシャルキャピタル（社会関係資本）の果たせる役割は何か。地域やコミュニティに根ざした格差・分断の克服の可能性を考えたい。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	公共政治論演習	「変容するデモクラシー：コミュニティと共生社会」がテーマである。近年、グローバル化の進展と並行して注目されているのが、ソーシャルキャピタルとコミュニティの役割である。本講義では、ポピュリズムを生み出した背景を検討し、社会的格差や分断を明らかにしたうえで、ソーシャルキャピタルの役割に注目する。グローバリゼーション下の地域社会のあり方、ソーシャルキャピタルの活用のあるべき姿などを検討するとともに、受講生がコミュニティに実践的に関わることで、受講生の将来のキャリアにつなげていくことも目指している。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	中東政治	中東の国際政治について、基礎文献を輪読する。現代中東政治の国際政治における位置づけがこれまで研究者の間でいかに議論されてきたか、研究動向を把握し、現状の中東政治の動向の理解の深化に役立てる。また、授業外では、関連するシンポジウム、ワークショップなどを紹介し、参加を促す。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	中東政治演習	中東政治に引き続き、英語論文の講読を行う。現代中東政治の国際政治における位置づけがこれまで研究者の間でいかに議論されてきたか、研究動向を把握し、現状の中東政治の動向の理解の深化に役立てる。また、授業外では、関連するシンポジウム、ワークショップなどを紹介し、参加を促す。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	宗教人類学	本授業は宗教社会人類学理論を踏まえながら、現代社会における「宗教」を多角的に考察し、特に近代以降の「宗教」のあり方やイメージの変化を探りながら、現代日本の事例を中心に宗教と社会の関係、そして現代医療との関係を考える際に必要となるクリティカル・シンキングを育てていく。トピックの中から受講者の希望も聞いて、担当者が最近出版された論文を選び、受講者と一緒に読み、毎回の授業でディスカッションする。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	宗教人類学演習	宗教人類学研究の最新の動向を追いながら、現代社会における宗教の諸相を検討する。特に「宗教と療法」、「宗教とテクノロジー」、「宗教と新自由主義」という三つのテーマを中心に最新研究の成果を取り上げて、その調査方法の進展と理論的展開について受講者とともにクリティカルに語っていききたい。トピックの中から受講者の希望も聞いて、担当者が最近出版された論文を選び、受講者と一緒に読み、毎回の授業でディスカッションする。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題探求科目	人文公共学府開設科目 現代社会思想	本授業は、近現代世界史の問題を哲学的・思想的に考えることを目的とする。グローバルな世界における課題の認識は、単に現象を認識するだけでは足りない。現象の背後には常に哲学的・思想的課題が潜んでいるのであり、そうした哲学・思想の来歴・接続・比較を通じて、課題とその解決方法を根源的に考察することが必要である。近現代の哲学者や思想家が取り組んだ課題とその認識に向けて生み出されたテキストを読み解くことによって、課題の根源的解決を図るための前提条件を考察する。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 現代社会思想演習	本授業は、近現代世界史の問題を哲学的・思想的に考えることを目的とする。グローバルな世界における課題の認識は、単に現象を認識するだけでは足りない。現象の背後には常に哲学的・思想的課題が潜んでいるのであり、そうした哲学・思想の来歴・接続・比較を通じて、課題とその解決方法を根源的に考察することが必要である。近現代の哲学者や思想家が取り組んだ課題とその認識に向けて生み出されたテキストを読み解くことによって、課題の根源的解決を図るための前提条件を考察する。前期の授業内容を踏まえて、近現代の哲学・思想を歴史的な文脈から再考する。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 地域社会学	近代化からグローバリゼーションに至るマクロな社会の構造（成り立ち・仕組み）・変動のもとでの地域社会の構造・変動を考察するための社会学ほかのアプローチ（基本的な概念・理論）を学ぶ。社会学のアプローチは、地域社会学・都市社会学を中心とする。現代社会における多様な価値観や生活ニーズにもとづく住民・市民の活動・事業・起業などの動向をふまえて、地域社会の構造（成り立ち・仕組み）や変動に関して社会的に考察するうえで必要な、地域社会学の基礎的な理論・概念および調査の考え方・方法について理解することを目指す。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 地域社会学演習	地域コミュニティやサード・セクターの研究について、コミュニティ政策、地域集団、市民参加、市民活動、地方自治などに関する地域社会学の研究成果とともに、コミュニティ論、サード・セクター論などに関する隣接領域における研究成果を扱う。それらに関する研究の中から、受講生が自らの研究を発展させるうえで有益と考えられる文献・論文・報告書等を選び、受講生がその理論枠組み、分析概念、調査方法などをふまえて、自らの研究課題の考察に応用して研究を進展させるとともに、検討した理論枠組み、分析概念、調査方法などの課題を考える。地域社会学および隣接領域における地域コミュニティやサード・セクターに関する研究成果について、その理論枠組み、分析概念、調査方法などを理解するとともに、その研究の意義と課題をふまえて自らの研究課題の考察を進展させることを目標とする。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 医療・福祉社会学	「認知症」における医療や介護の動向を「医療社会学」と「福祉社会学」という学問の視点から考えていくことで「医療社会学」と「福祉社会学」の概念や視点を身につける。「認知症」における医療や介護の動向を「医療社会学」と「福祉社会学」という学問の視点から考えていくことで「医療社会学」と「福祉社会学」の概念や視点を身につけると同時にケアや支援の場へのフィールドワーク（インタビュー調査、参与観察）をの方法を学ぶことを目標とする。	
課題探求科目	人文公共学府開設科目 医療・福祉社会学演習	この演習では、〈身体介助〉を社会的に吟味していく。そのため、「座学」ではなく、教室の机と椅子をどかして、自らの〈身体〉を動かしながら、〈身体〉を通して／を通じて「介助する／介助される〈身体〉」の感触をたしかめながら考える。この演習では、以下の2つの目的・目標をたてて「〈身体〉感触」の社会学をおこなっていく。 (1)身体介助技法を実際に吟味しながら、「自己責任」や「自立」を強調する現代社会において、それに相対する位置づけにおかれる「介助する身体」「介助される身体」の社会的意味について感・返る。(2)日常生活でのさまざまな動作方法をはじめ、スポーツの動作や介護技術の方法に応用されている古武術の身体技法を実際に吟味しながら、「気張る」「頑張る」価値観を強調する現代社会において、それに相対する位置づけにおかれる古武術の「力まない身体」「息を抜く身体」の社会的意味について吟味する。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題探求科目 人文公共学府開設科目	ヨーロッパ史Ⅲ	長い19世紀における北大西洋世界での人・モノ・情報の伝達とそれらによってもたらされた社会変容に関する基礎的文献（英語）を講読し、政治経済ならびに政治文化の変化について考察する。ブリテン史・アメリカ史を横断する地域史として北大西洋世界に関する学術的な知見を得ることを目的とする。目標としては当該テーマに関連する最新の学術論文・研究書を英語で精読し、理解した上で、それらを活用し、学生自らの問題関心を発展させることを目標とする。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	ヨーロッパ史Ⅲ演習	19世紀ブリテン諸島（特にイングランド、アイルランド）の政治文化・政治社会に関する基礎的文献（英語）を講読し、統治と民衆文化の変化について考察する。19世紀ブリテン諸島（特にイングランド、アイルランド）の政治文化・政治社会に関する学術的な知見を得ることを目的とする。目標としては当該テーマに関連する最新の学術論文・研究書を英語で精読し、理解した上で、それらを活用し、学生自らの問題関心を発展させることを目標とする。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	公共政策論	この授業は、公共政策・社会政策をグローバルで国際的な視野から比較検討することを目的とする。それゆえ、特定の国家の政策に限定して論じるのではなく、常に政策が形成される枠組みの政治的・制度的要因を比較して論じることとする。授業の目的は以下の通りである。 1) 諸政府の政治過程の主要な諸段階と政策決定における多様なアクターを分析する。2) 政策決定に影響を与える様々な制度の役割を理解する。3) 公共政策や社会政策の背後にある仮定、理論、価値観等について分析する。4) 政策が社会諸集団に与える影響を評価する。5) 政策の批判的分析を行う能力を身に付ける。6) 政策形成や政策分析にあたって使用されるデータや情報の扱い方に習熟する。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	公共政策論演習	この授業は、前期に引き続き、その発展形として、公共政策・社会政策をグローバルで国際的な視野から比較検討することを目的とする。特定の国家の政策に限定するのではなく、常に比較の視点を重視する。授業を受講した後は、次のような能力を身に付けていることを目的とする。1) 諸政府の政治過程の主要な諸段階と政策決定における多様なアクターを分析する能力。2) 政策決定に影響を与える様々な制度の役割を理解する能力。3) 公共政策や社会政策の背後にある仮定、理論、価値観等について分析する能力。4) 政策が社会諸集団に与える影響を評価する能力。5) 政策の批判的分析を行う能力。6) 政策形成や政策分析にあたって使用されるデータや情報を十全に取り扱う能力。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	知識情報科学	人間の知識情報処理に関する多様なアプローチを紹介し、それらの関係について分析する。人間が、知識や情報をどのように認識し、それらをどのように処理しているか、については哲学的・思想的なアプローチにとどまらず、心理学や認知科学の知見による分析が必要である。知識情報科学という学問分野が歴史的に形成されてきた過程を分析すること、そして知識情報科学の現在における到達点を把握することが本授業の目的である。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	知識情報科学演習	人間の知識情報処理に関する基礎的な知見を紹介し、その関連について論じる。授業は、開講時に選定したテーマについて、各学生が概要を説明し、その内容に関する議論を行なうという形式で進める。論文、文献などを自主的に読み、理解することで、人間の知識情報処理に関する理解を高める。可能ならば、隣接領域の知見を得、それをもとに、本来の領域の学問の理解を高める。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	生態人類学	生態人類学、及び文化人類学、自然人類学の基礎的な文献から応用的な文献まで購読していく。生態人類学、及び文化人類学、自然人類学の領域における専門的な知識、能力を身につけることを目指す。該当項目について、講義、基礎及び応用文献購読、基礎及び応用技法演習を行う。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	生態人類学演習	生態人類学、及び文化人類学、自然人類学の基礎的な文献から応用的な文献まで購読していく。生態人類学、及び文化人類学、自然人類学の領域における専門的な知識、能力を身につけることを目指す。該当項目について、講義、基礎及び応用文献購読、基礎及び応用技法演習を行う。前期の授業を踏まえて、より高度な内容を扱う。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題探求科目 人文公共学府開設科目	環境経済政策論	環境問題は、人間の経済活動と環境との接点で起きる問題である。環境問題の解決には、人間の経済活動をそれ単体として把握するのではなく、環境に対して開かれたものと捉え、人間の経済と環境とが相互依存関係にあることを認識することが必要である。そのような新しい経済学のあり方をエコロジカル経済学と名付け、授業ではその基本構造についての理解を深める。その際、エコロジカル経済学に関連する基本的な文献を読み解き、その考え方について修得することを目的とする。	
課題探求科目 人文公共学府開設科目	環境経済政策論演習	前期の授業内容を踏まえて、エコロジカル経済学の理解が政策形成にどのような影響を与えているかを考察する。まずは、政策研究レポートの実例を分析することを通じて、その書法に対する理解を深める。次に、チーム内の分担による分析、個人による政策研究分析と順次、実践的な作業を進めていく。これによって、経済学を閉じた学問分野として把握するのではなく、現実世界における諸課題の解決に資する実践的な学問であることを、環境経済政策を事例として認識していくことを目的とする。	
課題探求科目 融合理工学府開設科目	建築・都市と人間の歴史	歴史的建造物保存を考える上で必要な理念、法制度について教授する。とくに、未だ十分な法的保護が行われていない近代建築の意義・評価を明確にするため、近代建築の設計者の著作を取り上げ、その読み解き方を教授する。課題文を精読し、内容についての議論を行う。近代建築の価値、設計者の思想的に伝える冊子等の作成およびプレゼンテーションを行う。近現代における建築・都市に係る様々な試み、活動の概要を理解するとともに、その意義を明らかにするため、各国における歴史的建造物保存の歴史を理解する。近代建築の設計者に関する文献を精読し、正確に理解した上で、内容についての専門的な議論を交わすことができるようになる。議論の進行、小冊子の作成を通して、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を身につける。	
課題探求科目 融合理工学府開設科目	人工知能	古典的な人工知能研究について講義を行なう。人間のように知的な機械を作りたい、という欲求から、コンピュータの発展とともに人工知能研究は行なわれてきた。その中で確立してきた様々な理論や技術について、その基礎知識と応用技術に関する講義を行なう。本講義を受講することにより、探索・推論・学習などの人工知能の基礎的な知識と応用研究に適用可能な技術を身につけることを目標とする。	
課題探求科目 融合理工学府開設科目	環境エネルギー保全論	資源・エネルギー問題および環境問題に対応した持続可能な社会の構築を目指して、既存型から次世代型までの物質・エネルギー有効利用システムの開発とその社会への導入に必要な知識を、主に物理化学、化学工学および社会工学的観点から講義する。  (オムニバス方式/全16回) (27 松野泰也/8回) 資源環境とサステナビリティ、物理化学基礎、マテリアルの3R、環境マテリアル保全システム (26 小倉裕直/8回) 化学工学基礎、エネルギーのReduce・Resycle	オムニバス
課題探求科目 融合理工学府開設科目	環境エネルギーシステム学	資源・環境・エネルギー問題とマテリアルとの関わりについて、主に、地球環境問題との知識が定着できることを目標とする。地球環境問題と材料開発、材料製造プロセスと資源・環境・エネルギー、環境保全と材料利用、の3つのテーマについてプレゼンテーション・ディスカッションを行う。資源・環境・エネルギー問題とマテリアルとの関係についての知識が定着できることを目標とする。様々な材料の原料となる鉱物資源の特徴と素材の製造プロセスを理解する。また、様々な環境問題に利用される材料の種類や特性に関する知識を習得する。	
課題探求科目 融合理工学府開設科目	環境資源循環学	前半は化学工学を専門とする上で必要不可欠な機器分析法について、分析手法のメカニズムならびに簡単なデータの読み取り方を解説する。演習も取り入れ、目で見えない化学構造がどのように解明されているかを知ってもらう。後半は化学工学的立場から、循環型材料としてのプラスチック、物質流動に焦点を絞り、さらにそれを基礎科学に基づいて理解するための不均一系化学、レオロジーについて講義する。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題探求科目 融合理工学府開設科目	建築環境計画理論	環境心理評価手法の講義と学生による調査演習を行う。建築環境心理学における人の評価構造の把握方法、環境の印象の評価方法及び分析手法に対する理解を深める。具体的には、環境心理研究の位置づけと背景、探索的調査手法、本人の発話による評価視点・評価構造把握、観察による評価方法、さまざまなデータ分析に係る理論と応用方法を学ぶ	
課題探求科目 融合理工学府開設科目	バイオエナジー基礎	日本のエネルギー多消費型現代社会において、環境問題や廃棄物処理など、都市ではあらゆる問題が深刻化している。近年、循環型社会を目指し、このような問題を解決しながら、環境にやさしい自然エネルギーを創出する取り組みが始まっている。本授業では、そのようなバイオエナジーの技術を用いている先進的な例を挙げながら、生物の力を利用した環境保全・修復および資源・エネルギーの持続的利用技術の開発および将来の展開について講義を行う。	共同
課題探求科目 融合理工学府開設科目	人間－生活環境論	人間の生活環境は、温度、光、音、匂いなどの物理的要素のみならず、さまざまな道具や機器などの人工物要素から構成されている。快適で健康な生活環境を構成するためには、これらの環境要素に対する人間の適応能に関する理解と考究が必須である。本授業ではこのような背景のもとで人間の生理的特性について理解を深める。人間の環境適応能に関する理解にたった生活環境のあり方について考究しうる基本的な能力の獲得を目指す。	
研究指導・修士論文	研究計画指導 I	<p>専攻する研究分野における先端的な研究課題の中から、指導教員等と協議しながら新規性と独創性の高いテーマを設定する。多くの学術論文から情報を集め、研究背景の理解を深めながら、詳細な研究計画を立案する。同時に分析方法を修得し、研究課題を効率的・効果的に設定・推進する方法を学ぶ。</p> <p>(1 小澤 弘明) 歴史学、特にヨーロッパ近現代史や国際関係論に関連した研究の角度から指導を行う。</p> <p>(2 村岡 英裕) 社会言語学、接触場面研究、談話分析、エスノグラフィー研究の角度から指導を行う。</p> <p>(3 神里 達博) 科学史、科学技術社会論、リスク社会論、科学技術コミュニケーション研究の角度から指導を行う。</p> <p>(4 串田 正人) 電気物性工学、分子エレクトロニクス、有機ナノ界面科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(5 渡邊 誠) デザインマネジメント、デザインシステム、プロダクトデザイン研究の角度から指導を行う。</p> <p>(6 福田 友子) 国際社会学、移民研究、エスニック・ビジネス、マイノリティ研究の角度から指導を行う。</p> <p>(7 小林 聡子) 言語人類学、比較教育学、応用言語学、言語相互作用と社会組織、人種研究の角度から指導を行う。</p> <p>(8 東島 仁) 科学社会学、科学技術史、科学技術社会論、科学倫理、生命医科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(9 三野 弘文) 光物性物理学、固体物性、ナノ構造科学、物理教育論研究の角度から指導を行う。</p> <p>(10 永瀬 彩子) 都市環境デザイン、都市における生物多様性、植物工場の技術開発、環境教育学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(11 徳永 留美) 視覚情報処理、色彩工学、人間情報学、多元的認知行動解析研究の角度から指導を行う。</p> <p>(12 鈴木 雅之) 地域再生、地方創生、まちづくり、団地再生、建築計画、住環境、コミュニティ・ビジネス研究の角度から指導を行う。</p> <p>(13 佐々木 綾子) 国際社会福祉学、国際社会学、人の国際移動と福祉政策、人身取引問題研究の角度から指導を行う。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 ・ 修 士 論 文	研究計画指導Ⅱ	<p>専攻する研究分野における先端的な研究課題の中から、指導教員等と協議しながら新規性と独創性の高いテーマを設定した上で、研究計画を深化させる。多くの先行研究から情報を集め、研究背景の理解を深めながら、より詳細な研究計画を立案し、その検証を行う。同時に多様な分析方法を修得しながら、研究課題を現実化する方法を学ぶ。</p> <p>(1 小澤 弘明) 歴史学、特にヨーロッパ近現代史や国際関係論に関連した研究の角度から指導を行う。</p> <p>(2 村岡 英裕) 社会言語学、接触場面研究、談話分析、エスノグラフィー研究の角度から指導を行う。</p> <p>(3 神里 達博) 科学史、科学技術社会論、リスク社会論、科学技術コミュニケーション研究の角度から指導を行う。</p> <p>(4 串田 正人) 電気物性工学、分子エレクトロニクス、有機ナノ界面科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(5 渡邊 誠) デザインマネジメント、デザインシステム、プロダクトデザイン研究の角度から指導を行う。</p> <p>(6 福田 友子) 国際社会学、移民研究、エスニック・ビジネス、マイノリティ研究の角度から指導を行う。</p> <p>(7 小林 聡子) 言語人類学、比較教育学、応用言語学、言語相互作用と社会組織、人種研究の角度から指導を行う。</p> <p>(8 東島 仁) 科学社会学、科学技術史、科学技術社会論、科学倫理、生命医科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(9 三野 弘文) 光物性物理学、固体物性、ナノ構造科学、物理教育論研究の角度から指導を行う。</p> <p>(10 永瀬 彩子) 都市環境デザイン、都市における生物多様性、植物工場の技術開発、環境教育学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(11 徳永 留美) 視覚情報処理、色彩工学、人間情報学、多元的認知行動解析研究の角度から指導を行う。</p> <p>(12 鈴木 雅之) 地域再生、地方創生、まちづくり、団地再生、建築計画、住環境、コミュニティ・ビジネス研究の角度から指導を行う。</p> <p>(13 佐々木 綾子) 国際社会福祉学、国際社会学、人の国際移動と福祉政策、人身取引問題研究の角度から指導を行う。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導・ 修士論文	論文指導 I	<p>自ら研究計画で設定した先進的・先端的な研究課題・テーマについて、指導教員等と協議しながら新規性と独創性の高い研究を遂行する。修士論文作成に向けて、主題の設定、論文の構成、素材・資料の収集、文献目録の作成、研究材料の整理と提示の方法を学修する。その過程で逢着する問題点の洗い出し、解決方法の模索、論文として完成させるための技法などを学ぶ。</p> <p>(1 小澤 弘明) 歴史学、特にヨーロッパ近現代史や国際関係論に関連した研究の角度から指導を行う。</p> <p>(2 村岡 英裕) 社会言語学、接触場面研究、談話分析、エスノグラフィー研究の角度から指導を行う。</p> <p>(3 神里 達博) 科学史、科学技術社会論、リスク社会論、科学技術コミュニケーション研究の角度から指導を行う。</p> <p>(4 串田 正人) 電気物性工学、分子エレクトロニクス、有機ナノ界面科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(5 渡邊 誠) デザインマネジメント、デザインシステム、プロダクトデザイン研究の角度から指導を行う。</p> <p>(6 福田 友子) 国際社会学、移民研究、エスニック・ビジネス、マイノリティ研究の角度から指導を行う。</p> <p>(7 小林 聡子) 言語人類学、比較教育学、応用言語学、言語相互作用と社会組織、人種研究の角度から指導を行う。</p> <p>(8 東島 仁) 科学社会学、科学技術史、科学技術社会論、科学倫理、生命医科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(9 三野 弘文) 光物性物理学、固体物性、ナノ構造科学、物理教育論研究の角度から指導を行う。</p> <p>(10 永瀬 彩子) 都市環境デザイン、都市における生物多様性、植物工場の技術開発、環境教育学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(11 徳永 留美) 視覚情報処理、色彩工学、人間情報学、多元的認知行動解析研究の角度から指導を行う。</p> <p>(12 鈴木 雅之) 地域再生、地方創生、まちづくり、団地再生、建築計画、住環境、コミュニティ・ビジネス研究の角度から指導を行う。</p> <p>(13 佐々木 綾子) 国際社会福祉学、国際社会学、人の国際移動と福祉政策、人身取引問題研究の角度から指導を行う。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院総合国際学位プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 ・ 修士 論文	論文指導Ⅱ	<p>自ら研究計画で設定した先進的・先端的な研究課題・テーマについて、指導教員等と協議しながら修士論文を完成する。より具体的な論文のアウトラインを作成するとともに、論文の構成、記述方法、書式、文体等について学修する。その過程で逢着する問題点を解決し、最終的に修士論文を完成させるための学修を進める。</p> <p>(1 小澤 弘明) 歴史学、特にヨーロッパ近現代史や国際関係論に関連した研究の角度から指導を行う。</p> <p>(2 村岡 英裕) 社会言語学、接触場面研究、談話分析、エスノグラフィー研究の角度から指導を行う。</p> <p>(3 神里 達博) 科学史、科学技術社会論、リスク社会論、科学技術コミュニケーション研究の角度から指導を行う。</p> <p>(4 串田 正人) 電気物性工学、分子エレクトロニクス、有機ナノ界面科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(5 渡邊 誠) デザインマネジメント、デザインシステム、プロダクトデザイン研究の角度から指導を行う。</p> <p>(6 福田 友子) 国際社会学、移民研究、エスニック・ビジネス、マイノリティ研究の角度から指導を行う。</p> <p>(7 小林 聡子) 言語人類学、比較教育学、応用言語学、言語相互作用と社会組織、人種研究の角度から指導を行う。</p> <p>(8 東島 仁) 科学社会学、科学技術史、科学技術社会論、科学倫理、生命医科学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(9 三野 弘文) 光物性物理学、固体物性、ナノ構造科学、物理教育論研究の角度から指導を行う。</p> <p>(10 永瀬 彩子) 都市環境デザイン、都市における生物多様性、植物工場の技術開発、環境教育学研究の角度から指導を行う。</p> <p>(11 徳永 留美) 視覚情報処理、色彩工学、人間情報学、多元的認知行動解析研究の角度から指導を行う。</p> <p>(12 鈴木 雅之) 地域再生、地方創生、まちづくり、団地再生、建築計画、住環境、コミュニティ・ビジネス研究の角度から指導を行う。</p> <p>(13 佐々木 綾子) 国際社会福祉学、国際社会学、人の国際移動と福祉政策、人身取引問題研究の角度から指導を行う。</p>	

## 国立大学法人千葉大学 設置申請に関わる組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千葉大学				千葉大学				
国際教養学部				国際教養学部				
国際教養学科	90	-	360	国際教養学科	90	-	360	
文学部				文学部				
人文学科	170	3年次 10	700	人文学科	170	3年次 10	700	
法政経学部				法政経学部				
法政経学科	370	-	1,480	法政経学科	370	-	1,480	
教育学部				教育学部				
学校教員養成課程	390	-	1,560	学校教員養成課程	390	-	1,560	
理学部				理学部				
数学・情報数理学科	44	-	176	数学・情報数理学科	44	-	176	
物理学科	39	-	156	物理学科	39	-	156	
化学科	39	-	156	化学科	39	-	156	
生物学科	39	-	156	生物学科	39	-	156	
地球科学科	39	-	156	地球科学科	39	-	156	
工学部				工学部				
総合工学科	620	3年次 60	2,600	総合工学科	620	3年次 60	2,600	
園芸学部				園芸学部				
園芸学科	64	-	256	園芸学科	64	-	256	
応用生命化学科	31	-	124	応用生命化学科	31	-	124	
緑地環境学科	66	-	264	緑地環境学科	66	-	264	
食料資源経済学科	29	-	116	食料資源経済学科	29	-	116	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	117	3年次 5	722	医学科(6年制)	117	-	702	2019年で臨時定員増終了(△17)後に再度定員増(17) 3年次編入学廃止(△5)

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
薬学部			
薬学科(6年制)	50	-	300
薬科学科	40	-	160
看護学部			
看護学科	80	3年次 10	340
計	2,317	3年次 85	9,782
千葉大学大学院			
人文公共学府			
人文科学専攻(M)	38	-	76
公共社会科学専攻(M)	10	-	20
人文公共学専攻(D)	15	-	45
専門法務研究科			
法務専攻(P)	40	-	120
教育学研究科			
学校教育学専攻(M)	59	-	118
高度教職実践専攻(P)	20	-	40
融合理工学府			
数学情報科学専攻(M)	74	-	148
地球環境科学専攻(M)	81	-	162
先進理化学専攻(M)	207	-	414
創成工学専攻(M)	117	-	234
基幹工学専攻(M)	150	-	300
数学情報科学専攻(D)	9	-	27
地球環境科学専攻(D)	15	-	45
先進理化学専攻(D)	29	-	87
創成工学専攻(D)	18	-	54
基幹工学専攻(D)	17	-	51

2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
薬学部				
薬学科(6年制)	50	-	300	
薬科学科	40	-	160	
看護学部				
看護学科	80	3年次 10	340	
計	2,317	3年次 80	9,762	
千葉大学大学院				
人文公共学府				
人文科学専攻(M)	34	-	68	定員変更(△4)
公共社会科学専攻(M)	9	-	18	定員変更(△1)
人文公共学専攻(D)	15	-	45	
専門法務研究科				
法務専攻(P)	40	-	120	
教育学研究科				
学校教育学専攻(M)	59	-	118	
高度教職実践専攻(P)	20	-	40	
融合理工学府				
数学情報科学専攻(M)	74	-	148	
地球環境科学専攻(M)	81	-	162	
先進理化学専攻(M)	207	-	414	
創成工学専攻(M)	117	-	234	
基幹工学専攻(M)	150	-	300	
数学情報科学専攻(D)	9	-	27	
地球環境科学専攻(D)	15	-	45	
先進理化学専攻(D)	29	-	87	
創成工学専攻(D)	18	-	54	
基幹工学専攻(D)	17	-	51	

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
園芸学研究科			
環境園芸学専攻(M)	105	-	210
環境園芸学専攻(D)	18	-	54
医学薬学府			
医科学専攻(M)	27	-	54
総合薬品科学専攻(M)	50	-	100
先端医学薬学専攻(4年制D)	108	-	432
先進予防医学共同専攻(4年制D)	10	-	40
先端創薬科学専攻(D)	15	-	45
看護学研究科			
看護システム管理学専攻(3年制M)	12	-	36
看護学専攻(M)	25	-	50
看護学専攻(D)	12	-	36
共同災害看護学専攻(5年制D)	2	-	10
計	1,283	-	3,008

2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
園芸学研究科				
環境園芸学専攻(M)	105	-	210	
環境園芸学専攻(D)	18	-	54	
医学薬学府				
医科学専攻(M)	27	-	54	
総合薬品科学専攻(M)	50	-	100	
先端医学薬学専攻(4年制D)	108	-	432	
先進予防医学共同専攻(4年制D)	10	-	40	
先端創薬科学専攻(D)	15	-	45	
看護学研究科				
看護システム管理学専攻(3年制M)	12	-	36	
看護学専攻(M)	25	-	50	
看護学専攻(D)	12	-	36	
共同災害看護学専攻(5年制D)	2	-	10	
<u>総合国際学位プログラム</u>	<u>5</u>	<u>0</u>	<u>10</u>	研究科等連係課程実施基本組織の新設
計	1,283	-	3,008	